

2 大震災などの災害への備え

-
- (1) 備蓄や防災用具などの用意
 - (2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容
 - (3) 備蓄量
 - (4) 災害発生時の水や食料の確保
 - (5) 家具類の転倒・落下・移動防止対策
 - (6) 対策をしていない理由
 - (7) 地域の3種の避難場所とその意味の認知
 - (8) 避難場所の認知経路
 - (9) 大規模災害時の避難生活場所
 - (10) 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと
-

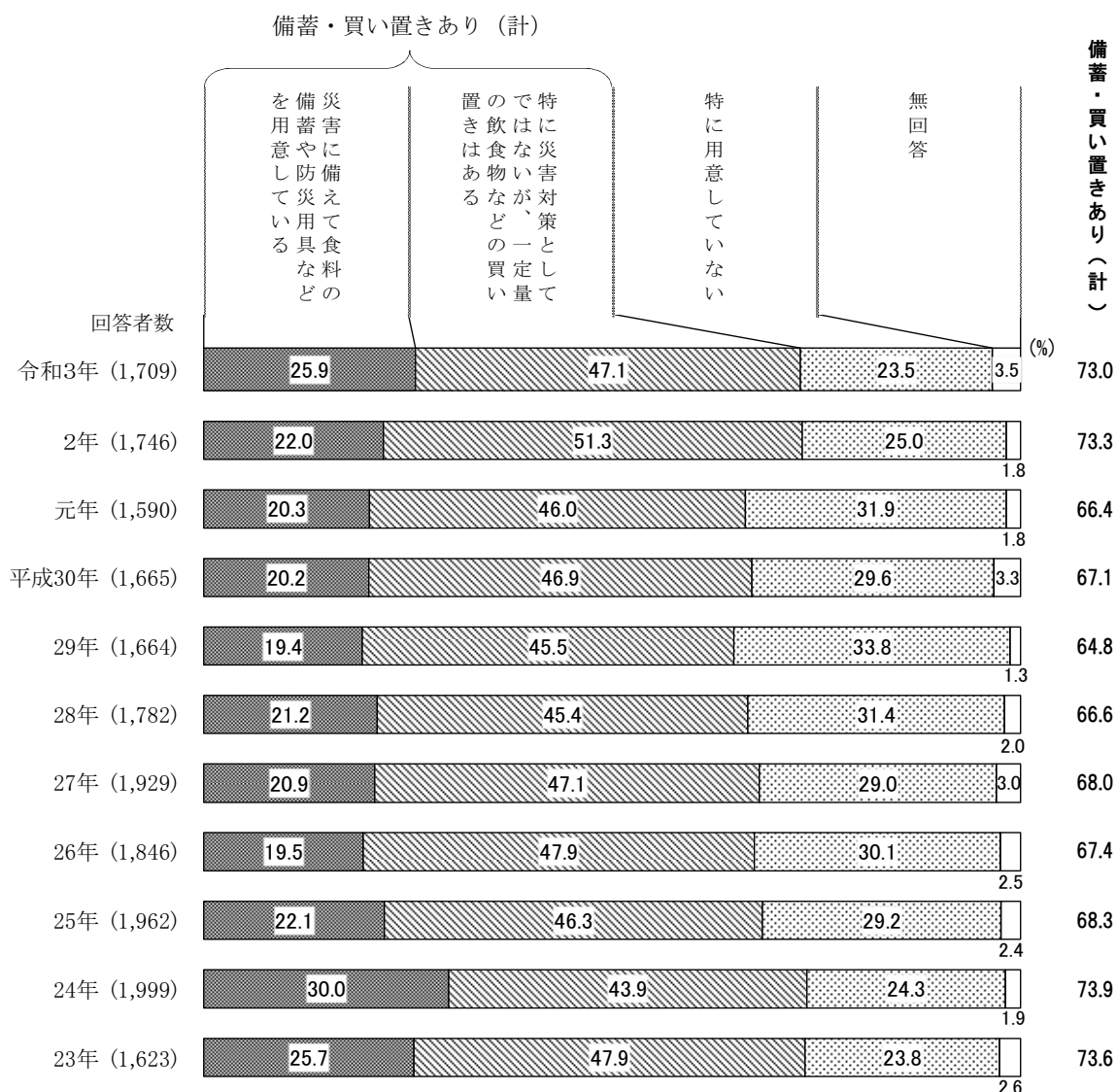
2 大震災などの災害への備え

(1) 備蓄や防災用具などの用意

■「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」は4人に1人の割合

問4 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料などの備蓄や防災用具などの用意をしていますか（○は1つだけ）。

図2-1-1 経年比較／備蓄や防災用具などの用意



災害に備えての準備状況については、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」が25.9%、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」が47.1%で、両者を合わせた【備蓄・買い置きあり】は73.0%となっている。一方、「特に用意していない」は23.5%となっている。

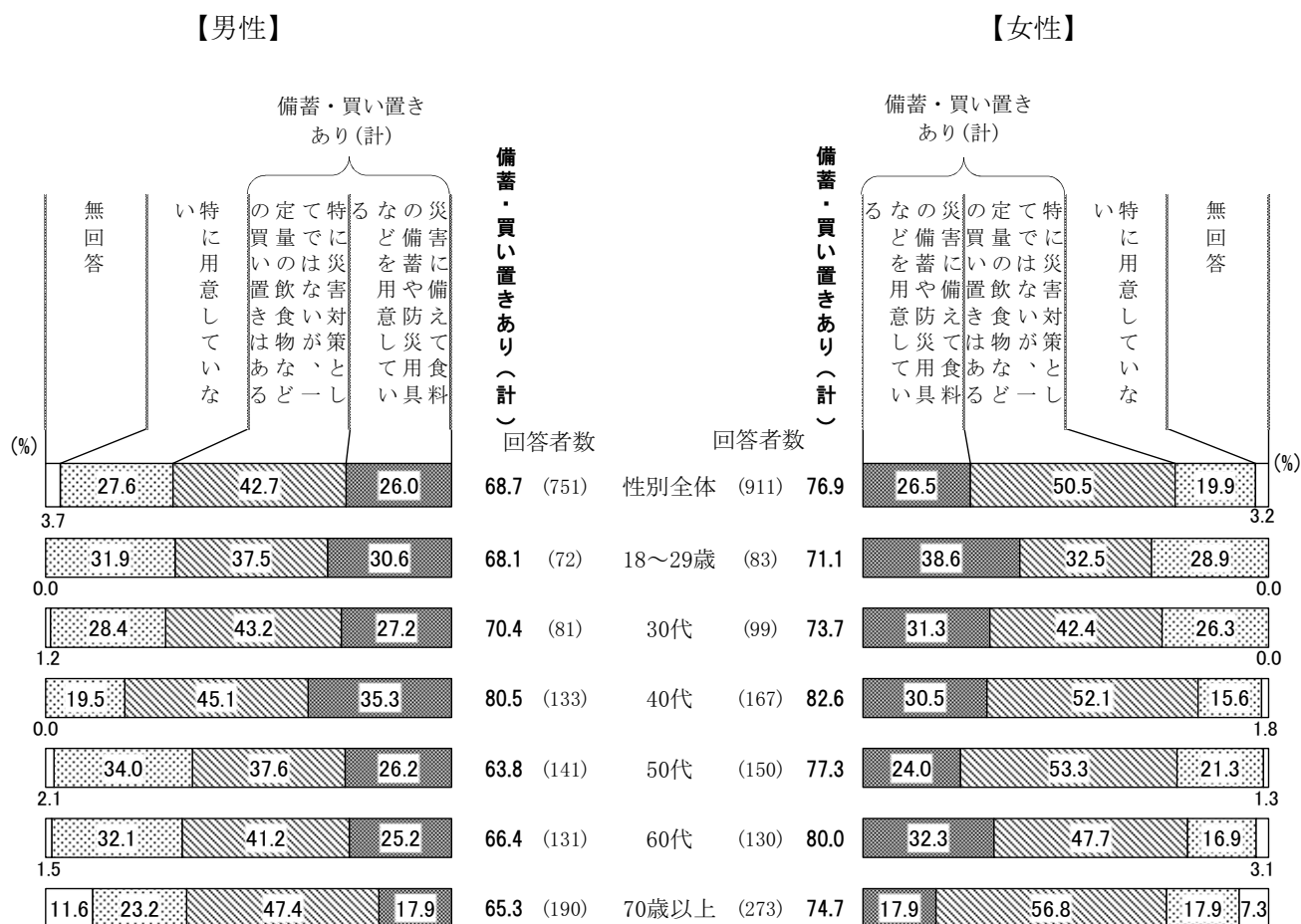
経年でみると、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」は前回の令和2年調査（22.0%）から3.9ポイント増加しているが、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」を合わせた【備蓄・買い置きあり】は令和2年調査（73.3%）に比べて0.3ポイントの減少となった。

第3章 調査結果の分析〈大震災などの災害への備え〉

性別でみると、【備蓄・買い置きあり】は女性（76.9%）の方が男性（68.7%）より8.2ポイント高くなっている。

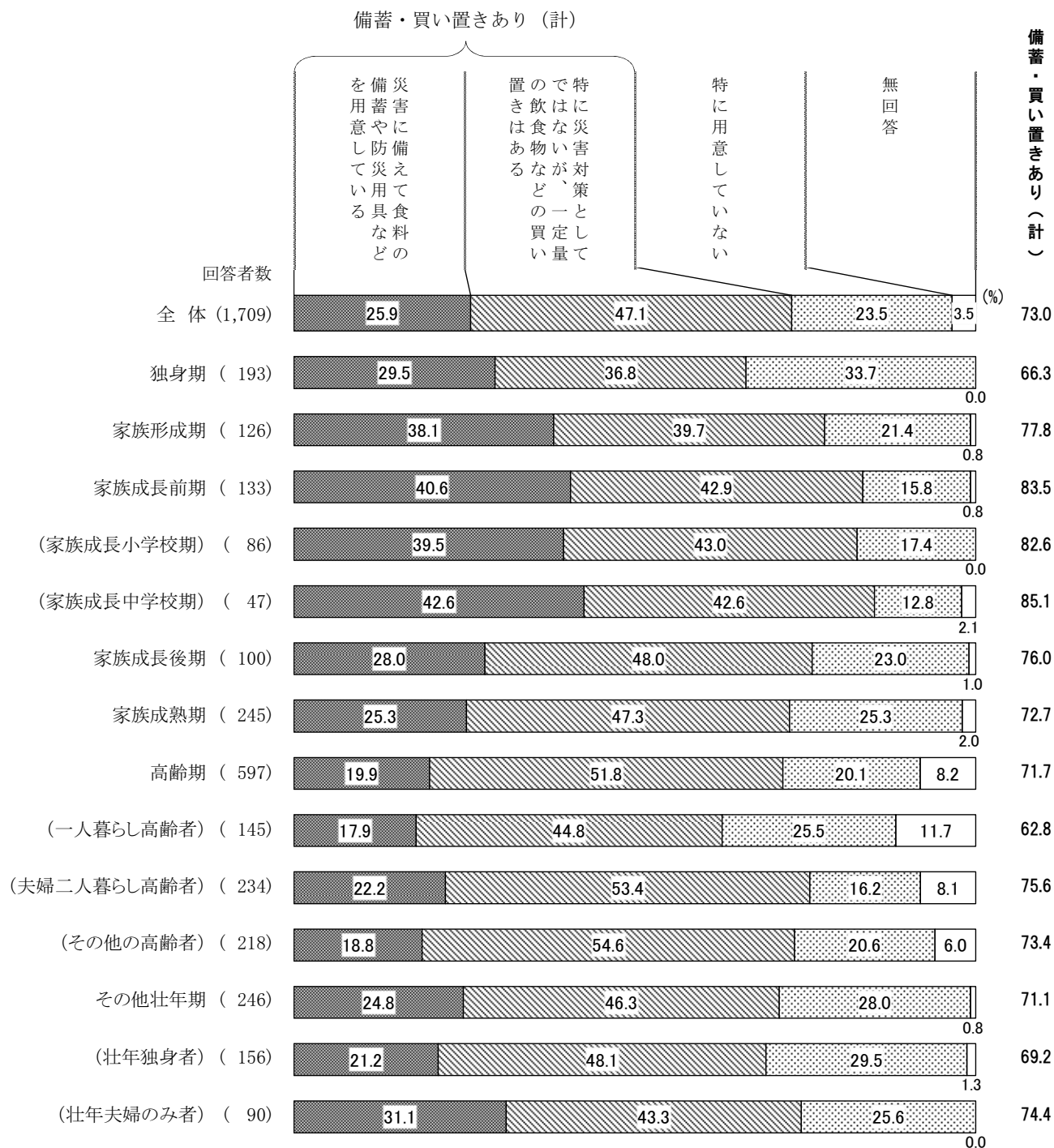
性・年代別でみると、【備蓄・買い置きあり】は、男女ともに40代（男性80.5%、女性82.6%）で最も高くなっている。「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」は、女性の18～29歳が38.6%で最も高く、「特に用意していない」は男性の50代が34.0%で最も高くなっている。

図2-1-2 性別、性・年代別／備蓄や防災用具などの用意



ライフステージ別でみると、【備蓄・買い置きあり】は〈家族成長前期〉で83.5%と最も高く、次いで〈家族形成期〉(77.8%)となっている。一方、〈独身期〉で66.3%と最も低いが、詳細区分では、〈(一人暮らし高齢者)〉で62.8%と最も低くなっている。

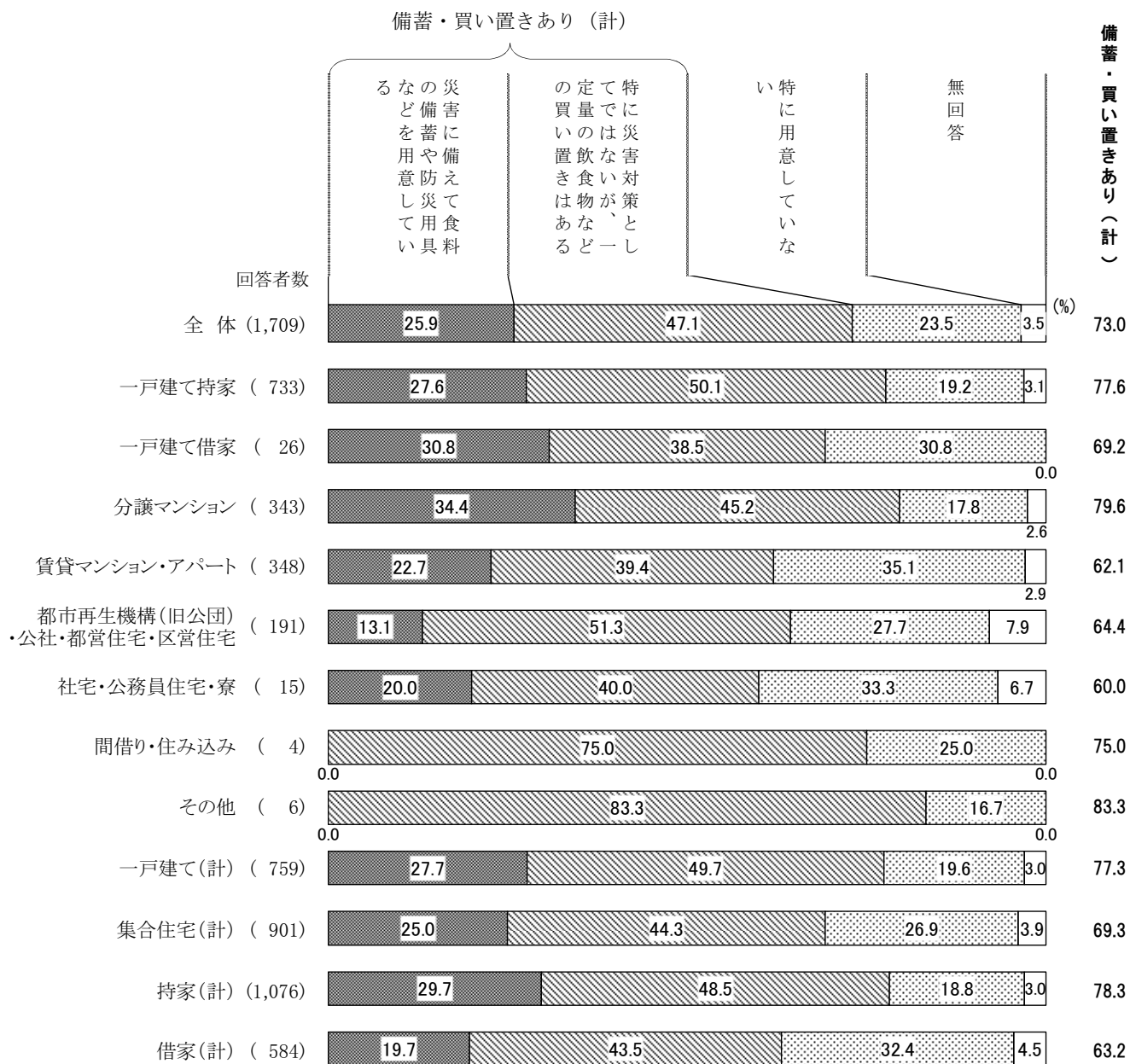
図2-1-3 ライフステージ別／備蓄や防災用具などの用意



第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

住居形態別でみると、【備蓄・買い置きあり】は〈分譲マンション〉が79.6%で最も高くなっている。住宅の戸建て集合別では、〈一戸建て（計）〉（77.3%）の方が〈集合住宅（計）〉（69.3%）より8.0ポイント高く、住宅の所有形態別では、〈持家（計）〉（78.3%）の方が〈借家（計）〉（63.2%）より15.1ポイント高くなっている。一方、「特に用意していない」は〈賃貸マンション・アパート〉が35.1%で最も高くなっている。

図2-1-4 住居形態別／備蓄や防災用具などの用意



※ 「一戸建て借家」「社宅・公務員住宅・寮」「間借り・住み込み」「その他」については、サンプル数が少ないため参考値。

(2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

■ 1位「水」(9割強)が前回調査から8ポイント増加、2位「食料」(9割)が10ポイント増加

問4で「1 災害に備えて～」または「2 特に災害対策としてでは～」とお答えの方に

問4-1 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容を教えてください

(〇はあてはまるものすべて)。

図2-2-1-① 経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

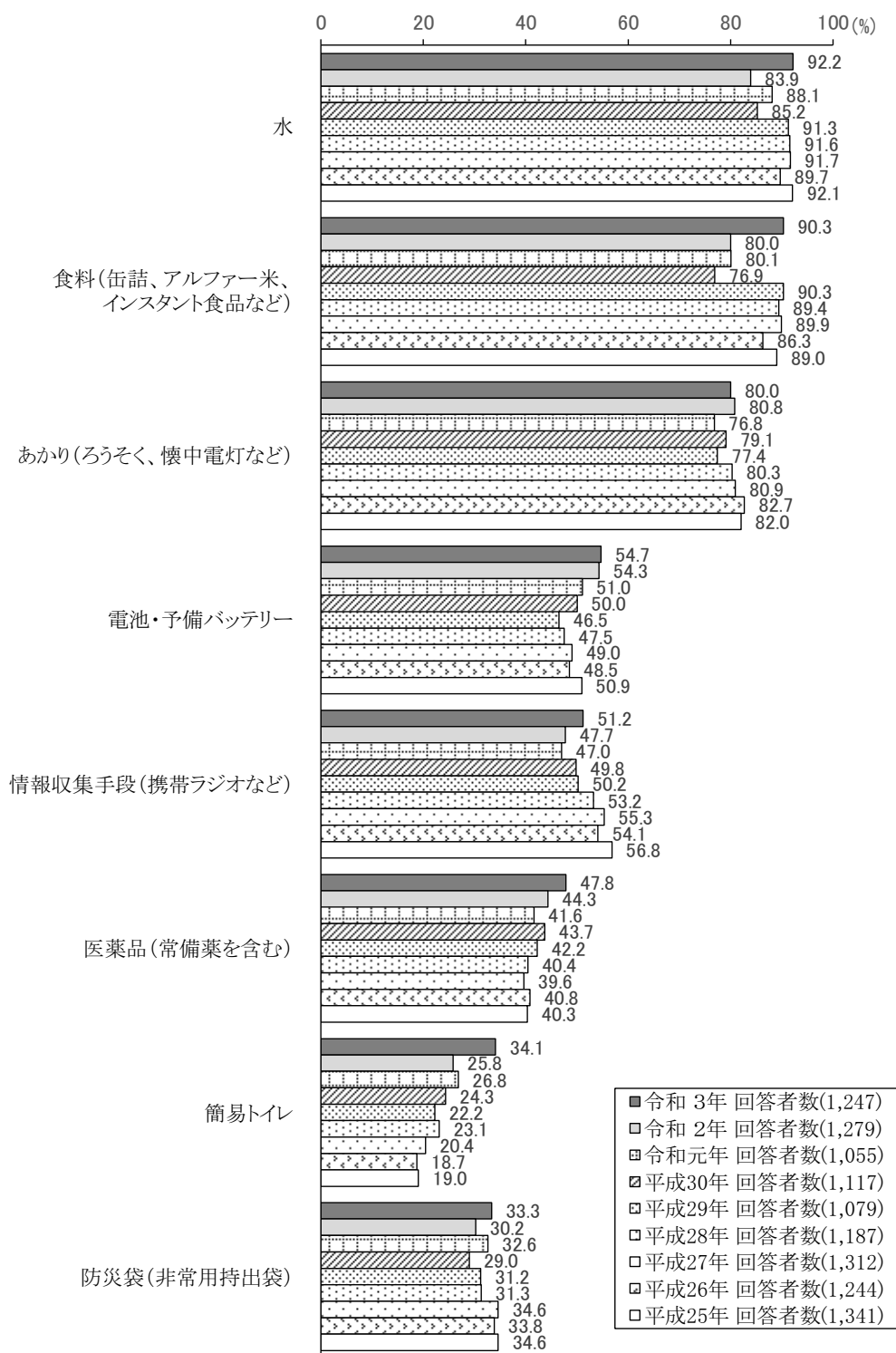


図2-2-1-② 経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

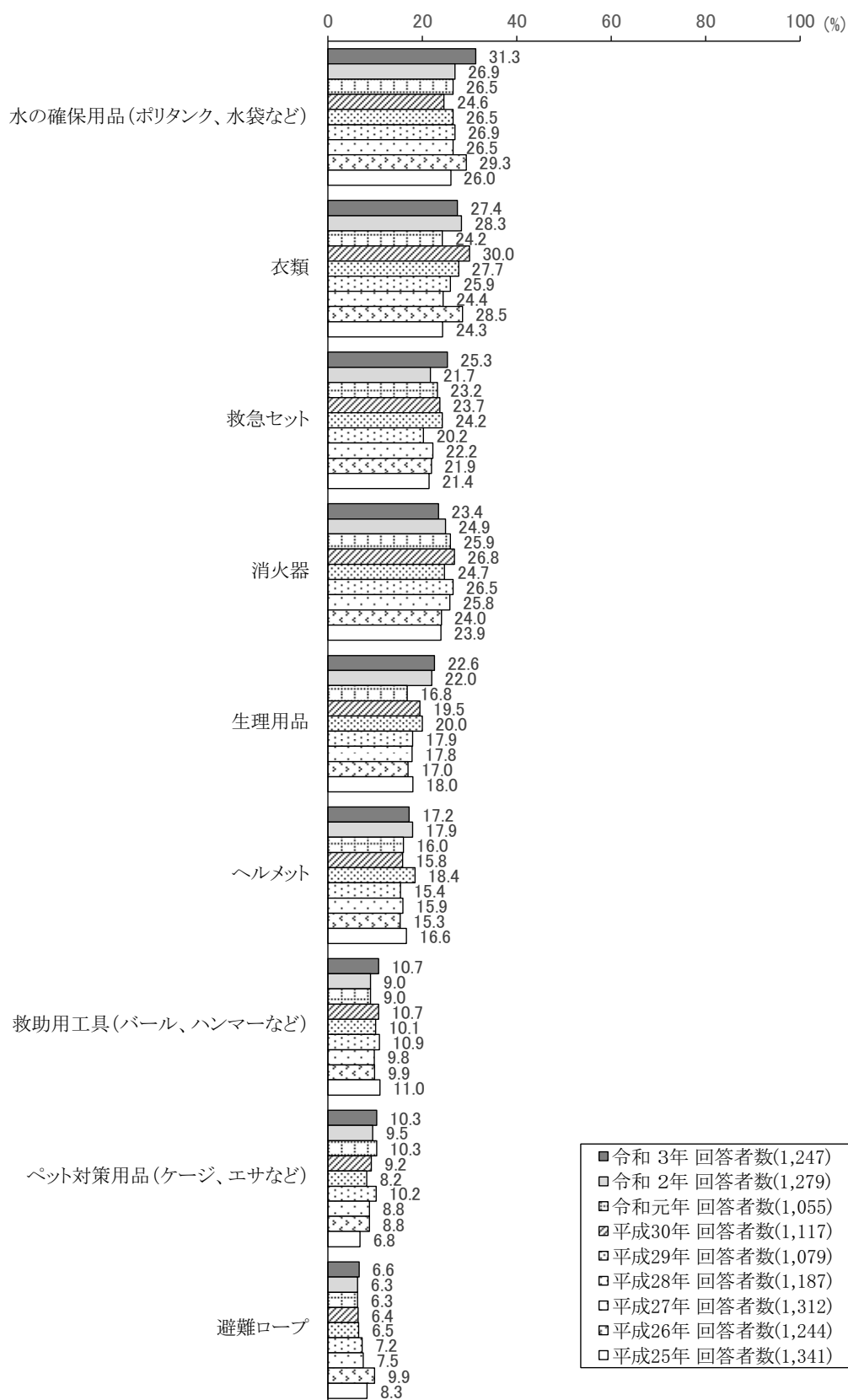
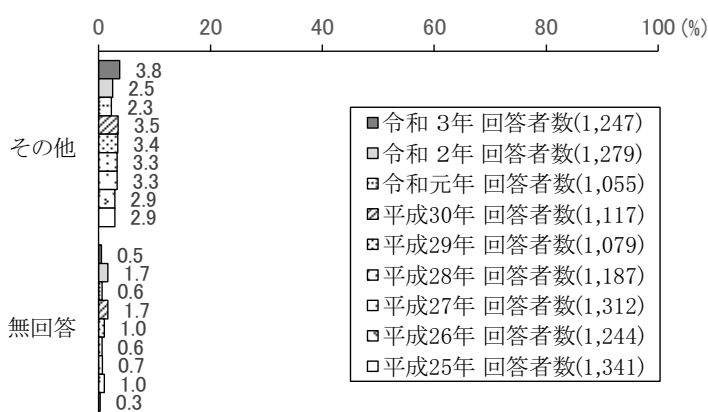


図2-2-1-③ 経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容



【備蓄・買い置きあり】の内容は、「水」が92.2%で最も高く、以下「食料（缶詰、アルファーマイ、インスタント食品など）」（90.3%）、「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」（80.0%）、「電池・予備バッテリー」（54.7%）、「情報収集手段（携帯ラジオなど）」（51.2%）などとなっている。

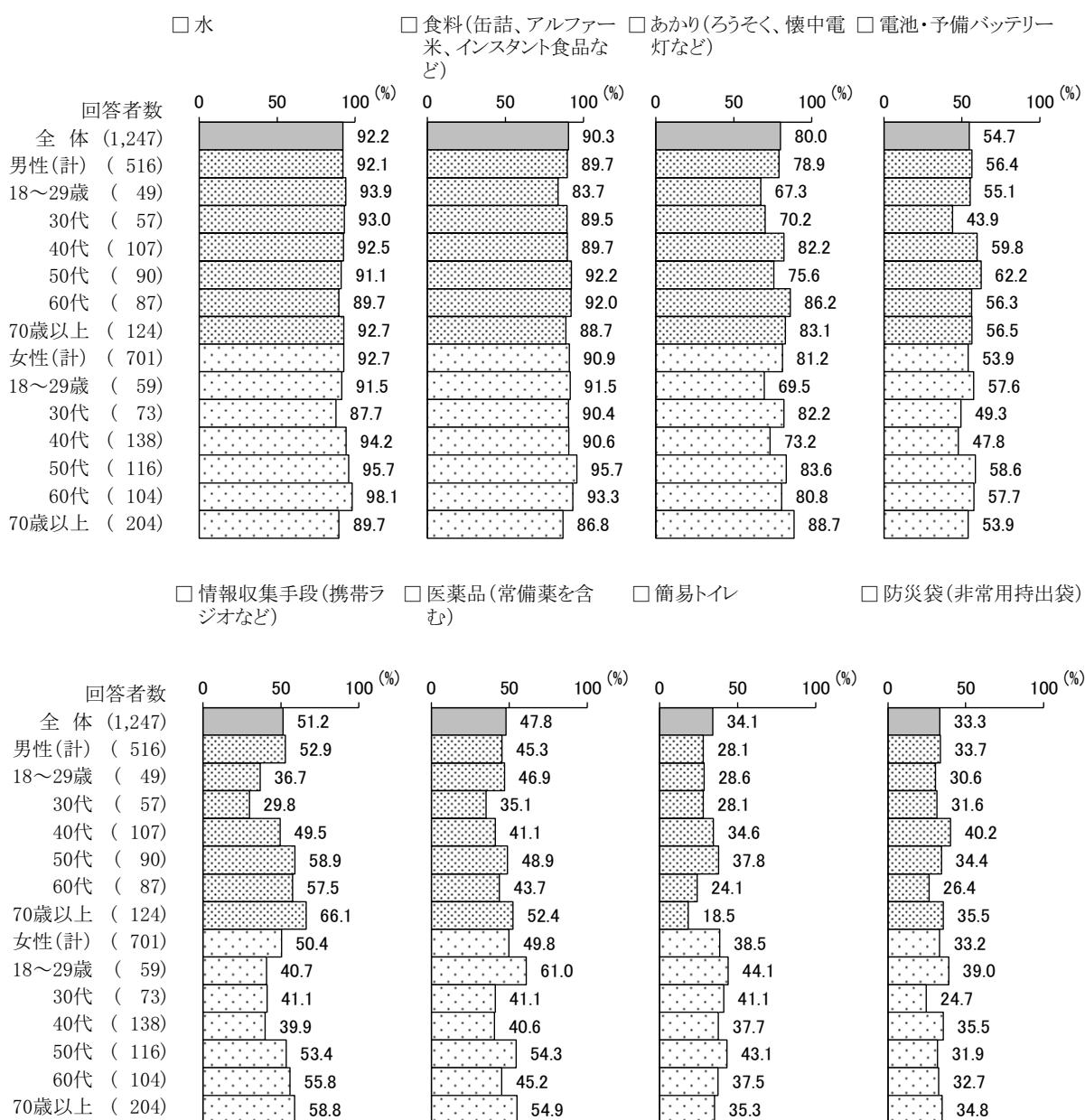
経年でみると、平成25年調査以降、「水」「食料（缶詰、アルファーマイ、インスタント食品など）」「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」が継続して上位3項目に挙げられている。前回の令和2年調査からの増減では、「水」（83.9%→92.2%）が8.3ポイント増加、「食料（缶詰、アルファーマイ、インスタント食品など）」は（80.0%→90.3%）が10.3ポイント増加している。また、「簡易トイレ」（25.8%→34.1%）が8.3ポイント増加している。

第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

上位項目を中心に、性別でみると、上位3項目の「水」、「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」、「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」では男女で大きな違いはみられないが、「簡易トイレ」（女性10.4ポイント）、「医薬品（常備薬を含む）」（女性4.5ポイント）の3項目はそれぞれ女性が男性より高くなっている。

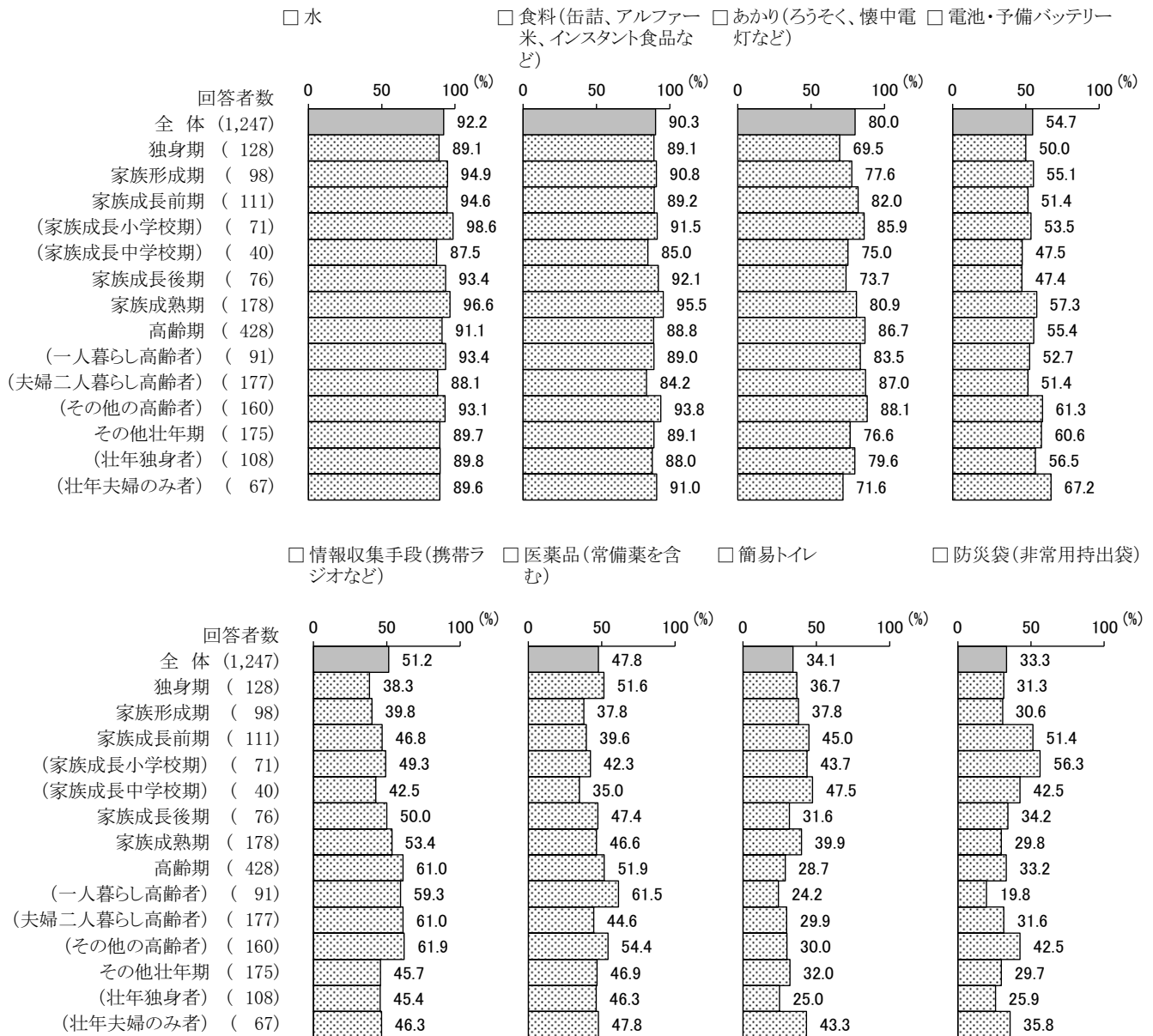
性・年代別でみると、男性では、「電池・予備バッテリー」で50代（62.2%）、「情報収集手段（携帯ラジオなど）」で70歳以上（66.1%）が最も高く、女性では上位3項目の「水」は60代（98.1%）、「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」は50代（95.7%）、「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」は70歳以上（88.7%）で最も高くなっている。

図2-2-2 性別、性・年代別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位8項目



ライフステージ別にみると、詳細区分を除いたところでは、「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」は〈家族成熟期〉（95.5%）、「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」は〈高齢期〉（86.7%）、「情報収集手段（携帯ラジオなど）」も〈高齢期〉（61.0%）が他のステージに比べて高くなっている。

図2-2-3 ライフステージ別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位8項目



(3) 備蓄量

■「水」と「食料」の【3日分以上の備蓄あり】はともに約4割

問4-1で「1 水」または「2 食料」とお答えの方に

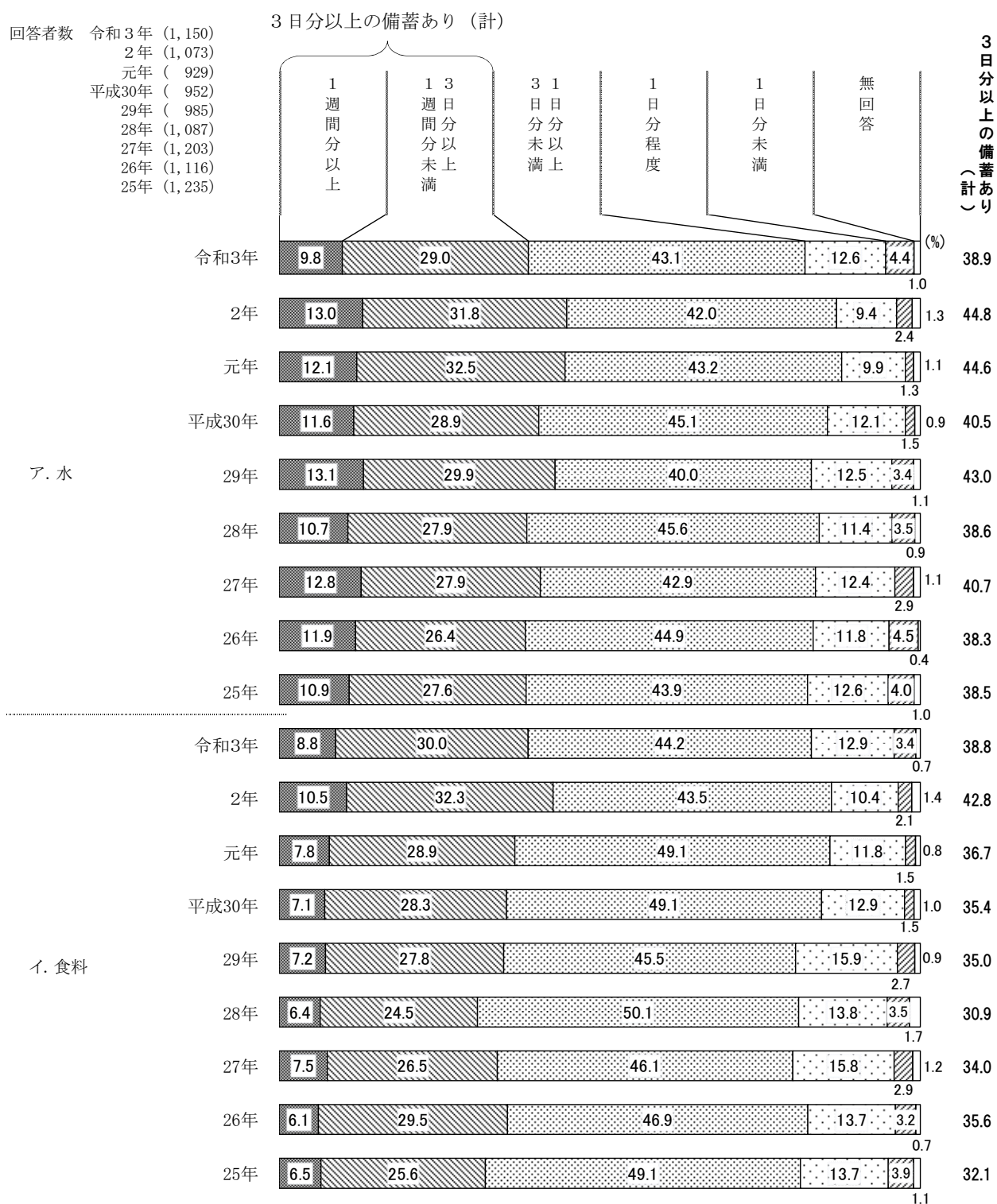
問4-1-1 あなたのご家庭では、「水」と「食料」の備蓄の量はどれくらいありますか。

「水」「食料」いずれかの備蓄がない場合は、その項目についての回答は不要です

(○はそれぞれ1つずつ)

※ 水は大人1人1日3リットルで計算。水、食料は日常の買い置きなどを含みます。

図2-3-1 経年比較／備蓄量



「水」の備蓄量については「1日分以上3日分未満」が43.1%で最も多く、次いで「3日分以上1週間分未満」(29.0%)となっている。「食料(缶詰、アルファーマ、インスタント食品など)」の備蓄量についても「1日分以上3日分未満」が44.2%で最も多く、次いで「3日分以上1週間分未満」(30.0%)となっている。また、「3日分以上1週間分未満」と「1週間分以上」を合わせた【3日分以上の備蓄あり】は「水」(38.9%)と「食料(缶詰、アルファーマ、インスタント食品など)」(38.8%)がほぼ同じ割合となっている。

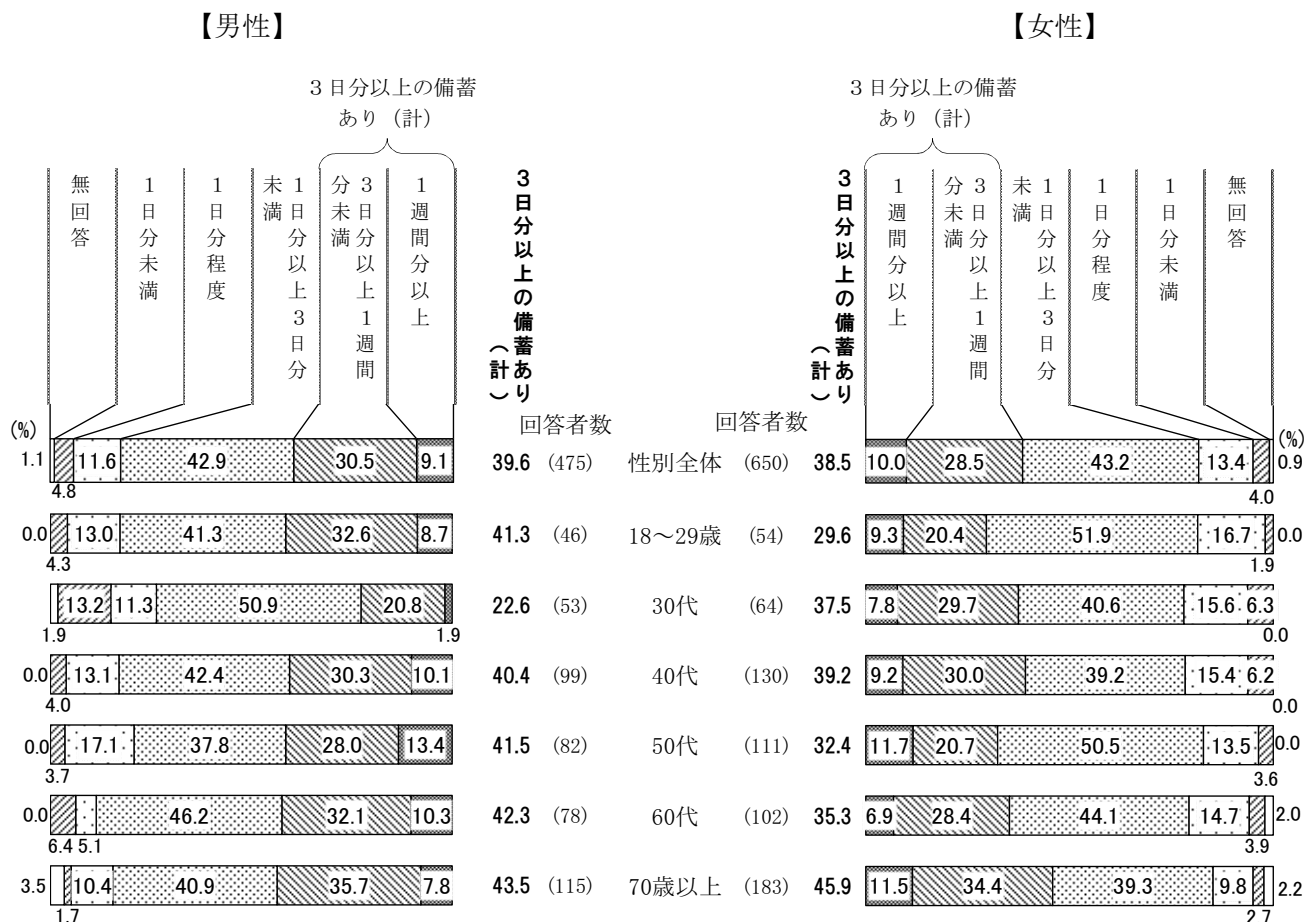
経年で【3日分以上の備蓄あり】をみると、「水」は前回の令和2年調査(44.8%)に比べて5.9ポイント減少し、「食料(缶詰、アルファーマ、インスタント食品など)」も4.0ポイント減少している。

第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

「水」の備蓄量を性別でみると、男女で大きな違いはみられない。

性・年代別で【3日分以上の備蓄あり】をみると、女性の70歳以上が45.9%で最も高く、次いで男性の70歳以上（43.5%）となっている。逆に、男性の30代が22.6%で最も低くなっている。また、「1日分未満」は、男性の30代が13.2%で最も高く、「1日分程度」は男性の50代（17.1%）、女性の18～40代で1割台半ばを超える。

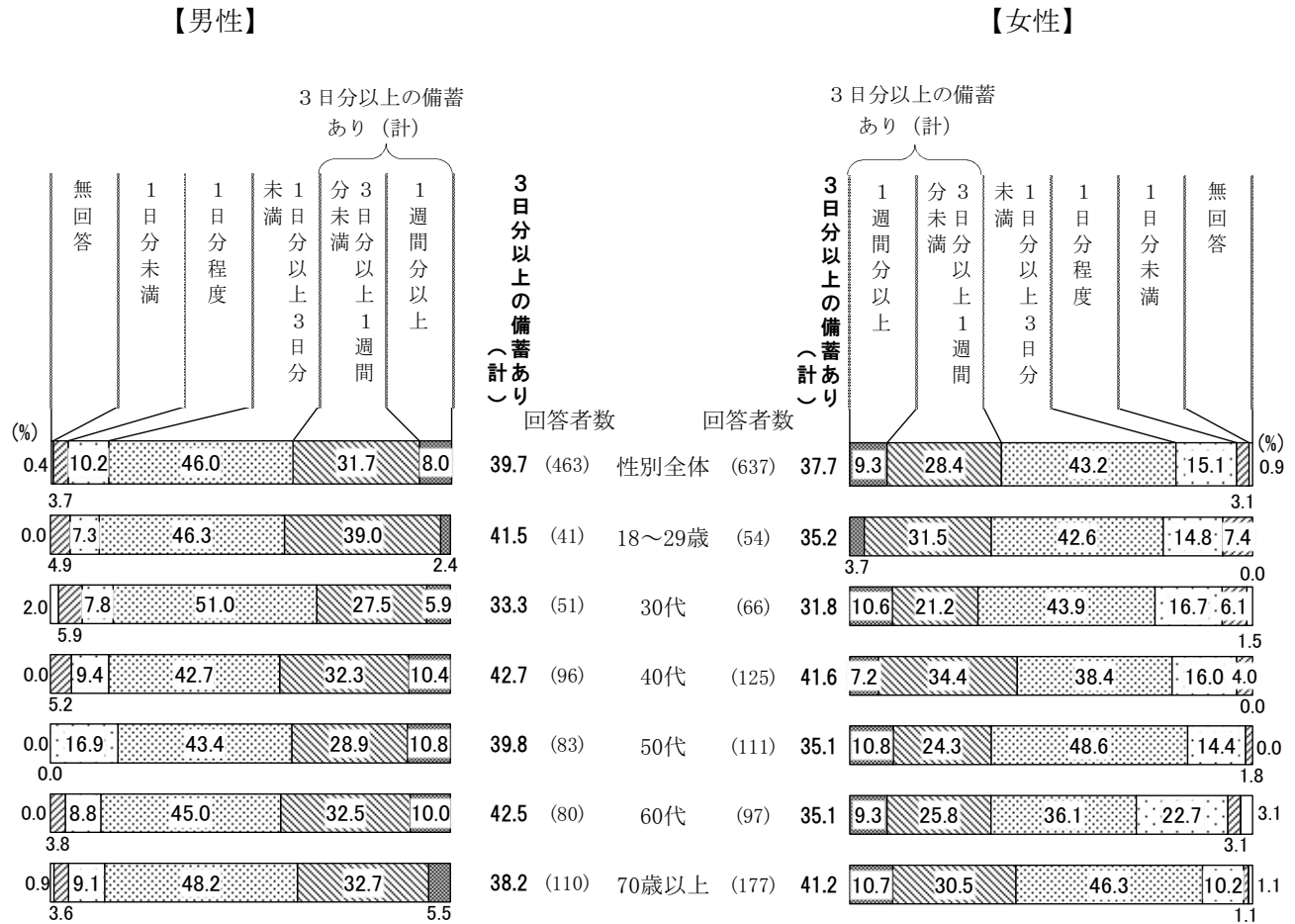
図2-3-2-① 性別、性・年代別／備蓄量／水



「食料」の備蓄量を性別でみると、【3日分以上の備蓄あり】では特に大きな差はないが、「1日分程度」では、女性（15.1%）の方が男性（10.2%）より4.9ポイント高くなっている。

性・年代別で【3日分以上の備蓄あり】をみると、男性の40代が42.7%で最も高く、次いで男性の60代（42.5%）となっている。「1日分程度」をみると、女性の60代が22.7%と最も高くなっている。

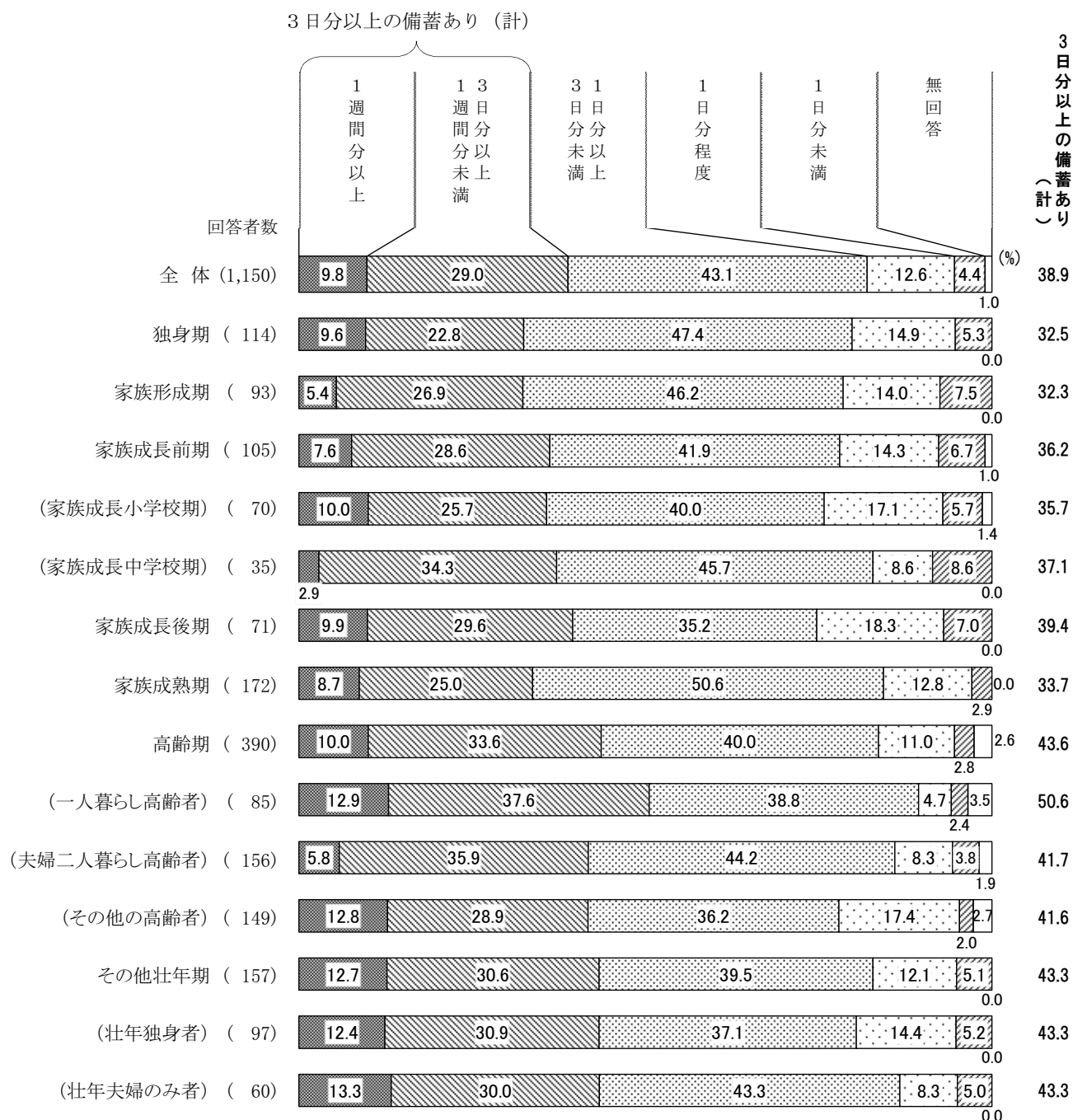
図2-3-2-② 性別、性・年代別／備蓄量／食料



第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

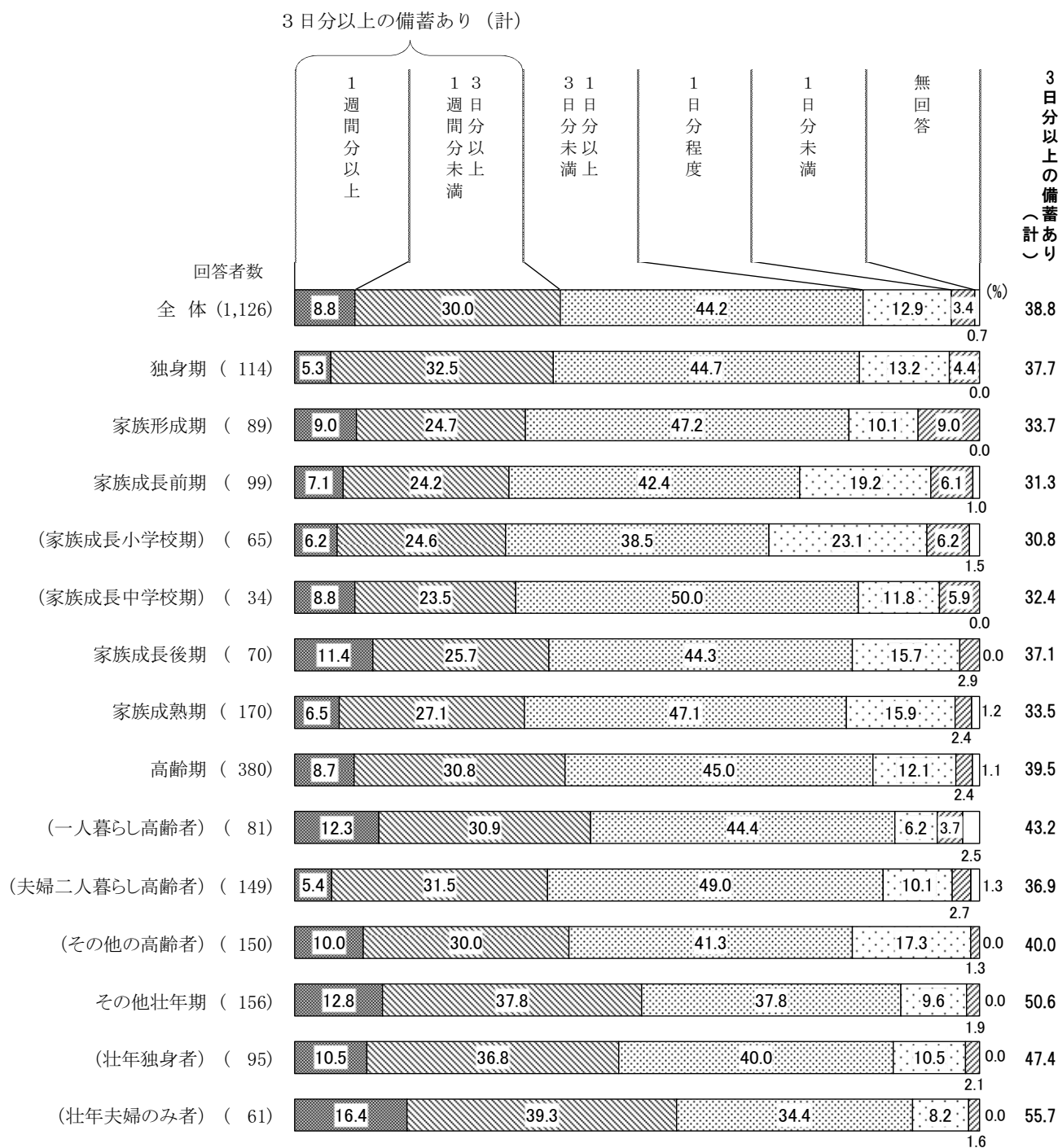
「水」の備蓄量をライフステージ別でみると、【3日分以上の備蓄あり】は〈高齢期〉(43.6%)が最も高く、次いで、〈その他壮年期〉(43.3%)となっている。詳細区分でみると、〈(一人暮らし高齢者)〉が50.6%と特に高くなっている。逆に〈家族形成期〉が32.3%で最も低くなっている。

図2-3-3-① ライフステージ別／備蓄量／水



「食料」の備蓄量をライフステージ別にみると、【3日分以上の備蓄あり】は〈その他壮年期〉（50.6%）が最も高く、次いで、〈高齢期〉（39.5%）となっている。詳細区分でみると、〈（壮年夫婦のみ者）〉が55.7%と特に高くなっている。逆に〈（家族成長小学校期）〉が30.8%で最も低くなっている。

図2-3-3-② ライフステージ別／備蓄量／食料



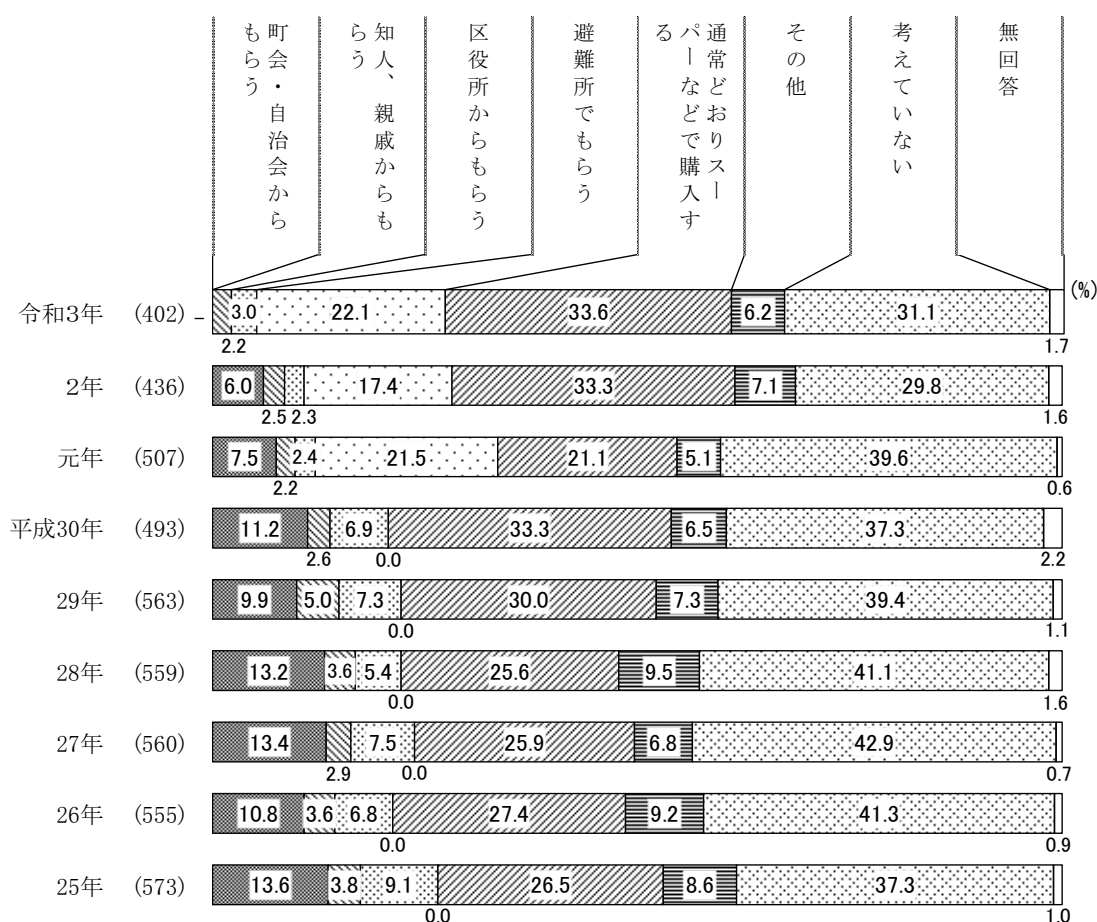
(4) 災害発生時の水や食料の確保

■「スーパーなどで購入」が3割台半ば近くで、「考えていない」(3割強)を上回っている

問5は、問4で「3 特に用意していない」とお答えの方におうかがいします

問5 災害が発生した場合、水や食料をどのようにして確保するつもりですか(○は1つだけ)。

図2-4-1 経年比較／災害発生時の水や食料の確保



※「町会・自治会からもらう」は、今回の令和3年度から削除。

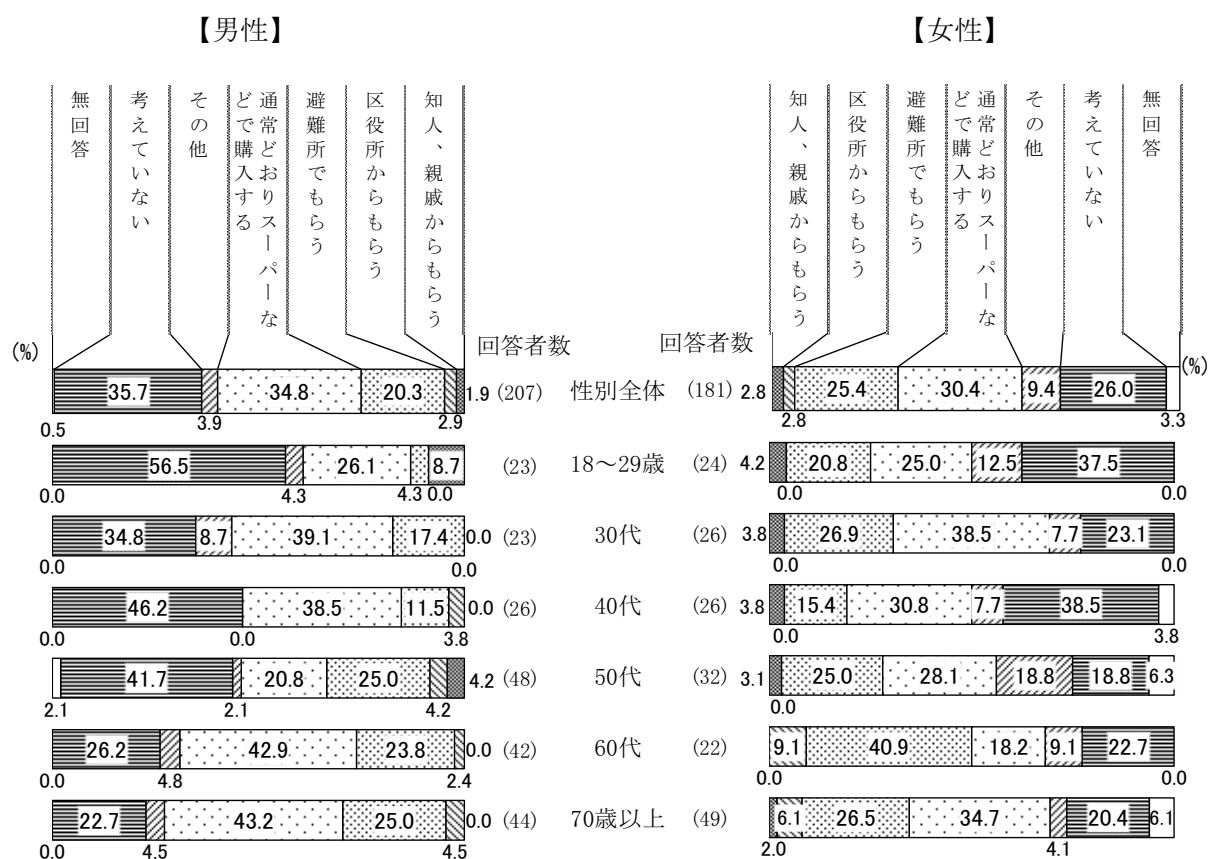
備蓄や防災用具などを「特に用意していない」という人に、災害発生時の水や食料の確保について聞いたところ、「通常どおりスーパーなどで購入する」が33.6%と最も高く、次いで「考えていない」(31.1%)、「避難所でもらう」(22.1%) などとなっている。

前回の令和2年調査との比較でみると、「避難所でもらう」が前回調査(17.4%)に比べて今回調査(22.1%)で4.7ポイント増加しているが、他の項目では特に大きな違いがないことから、今回調査で選択肢から削除した「町会・自治会からもらう」(前回調査で6.0%)の代替になったと考えられる。

性別でみると、「考えていない」は男性（35.7%）の方が女性（26.0%）より9.7ポイント高く、「通常どおりスーパーなどで購入する」でも男性（34.8%）の方が女性（30.4%）より4.4ポイント高くなっている。一方、「避難所でもらう」は女性（25.4%）の方が男性（20.3%）より5.1ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、40代以下でサンプル数が少ないことからあくまで参考値ながら、「考えていない」は男女とも18～29歳と40代で他の年齢層に較べて高くなっている。

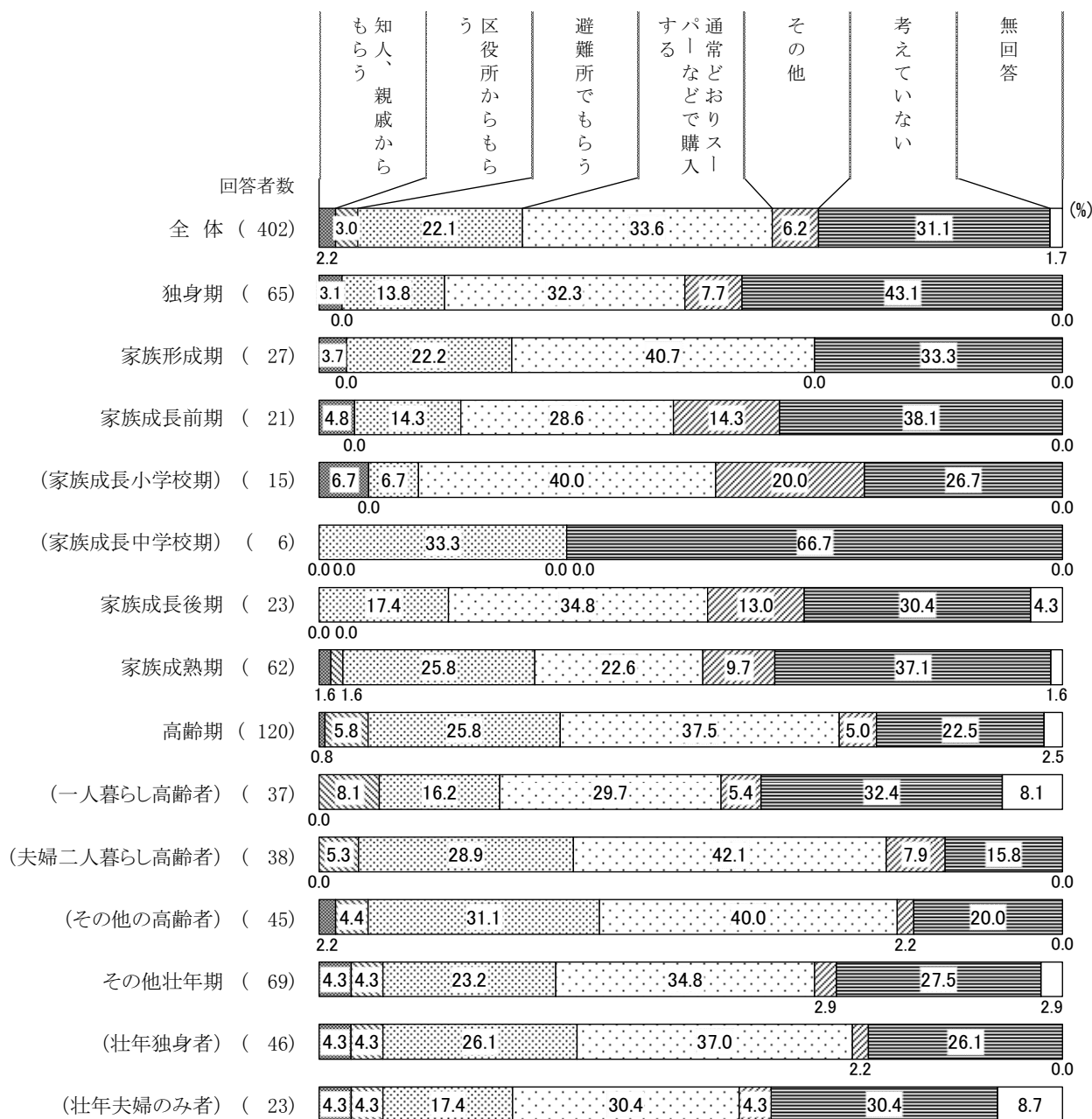
図2-4-2 性別、性・年代別／災害発生時の水や食料の確保



第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

ライフステージ別でみると、〈家族形成期〉、〈家族成長前期〉、〈家族成長後期〉でサンプル数が少ないことからあくまで参考値ながら、「考えていない」は〈独身期〉で高く、「避難所でもらう」は〈家族成熟期〉、〈高齢期〉で高くなっている。

図2-4-3 ライフステージ別／災害発生時の水や食料の確保



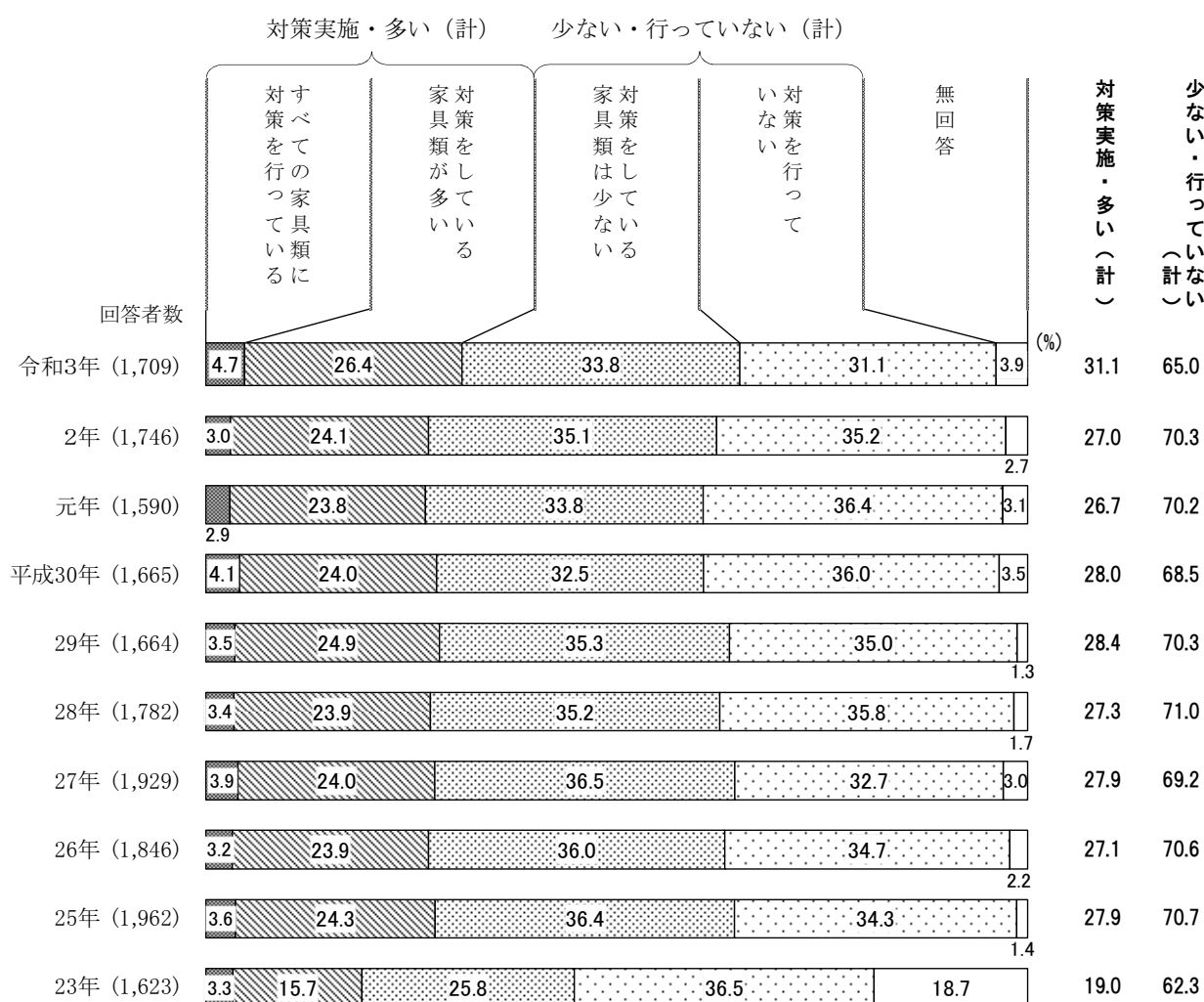
(5) 家具類の転倒・落下・移動防止対策

■【対策実施・多い】が初めて3割台

問6 あなたのご家庭では、つっぱり棒や壁止め金具などにより家具類（※）の転倒・落下・移動防止対策を行っていますか（○は1つだけ）。

※ 家具類とは、タンス、食器棚、冷蔵庫、電子レンジ、ピアノ、本棚、テレビ、パソコン機器などを指します。

図2-5-1 経年比較／家具類の転倒・落下・移動防止対策



家具類の転倒・落下・移動防止対策については、「すべての家具類に対策を行っている」は4.7%で、これに「対策をしている家具類が多い」の26.4%を合わせた【対策実施・多い】は31.1%となった。一方、「対策をしている家具類は少ない」は33.8%、「対策を行っていない」は31.1%で、両者を合わせた【少ない・行っていない】は65.0%となっている。

経年でみると、【対策実施・多い】は平成25年以降各年2割台後半で横ばいが続いていたが、今回調査で初めて3割台となった。

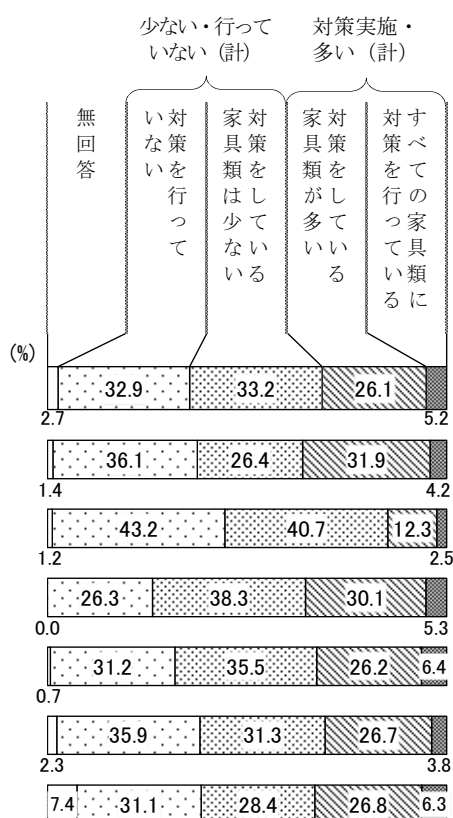
第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

性別では、特に大きな違いはみられない。

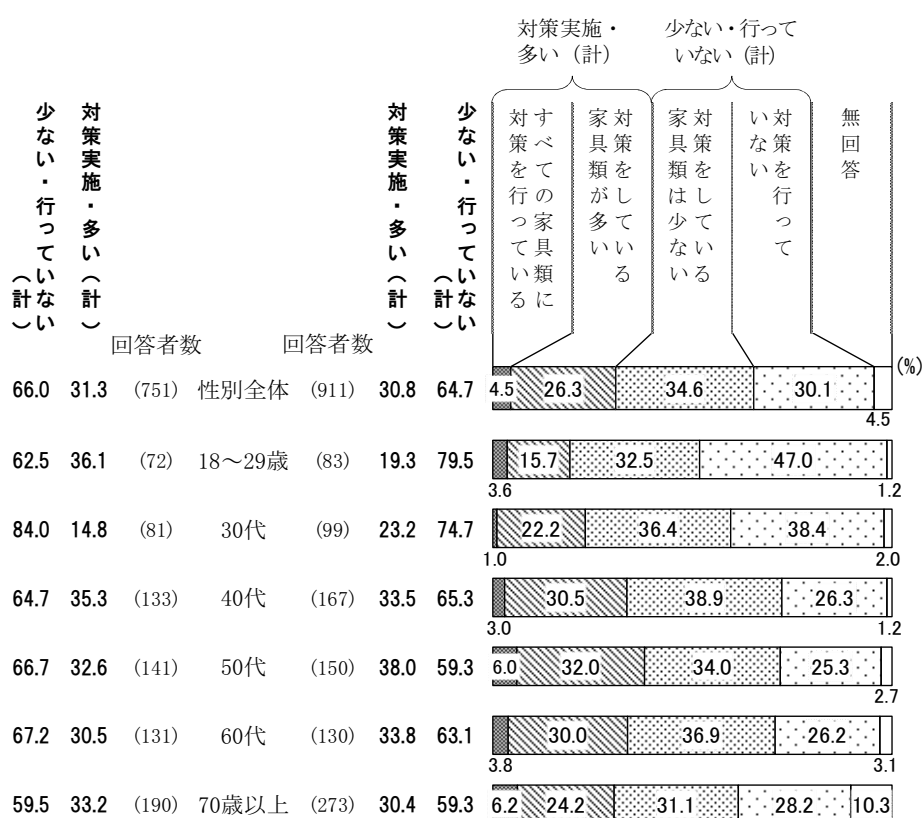
性・年代別でみると、【対策実施・多い】は、女性の50代（38.0%）で最も高く、男性の30代（14.8%）で特に低くなっている。一方【少ない・行っていない】は、男性の30代（84.0%）で最も高く、男性の70歳以上（59.5%）、女性の50代と70歳以上（各59.3%）で5割台と低くなっている。

図2-5-2 性別、性・年代別／家具類の転倒・落下・移動防止対策

【男性】

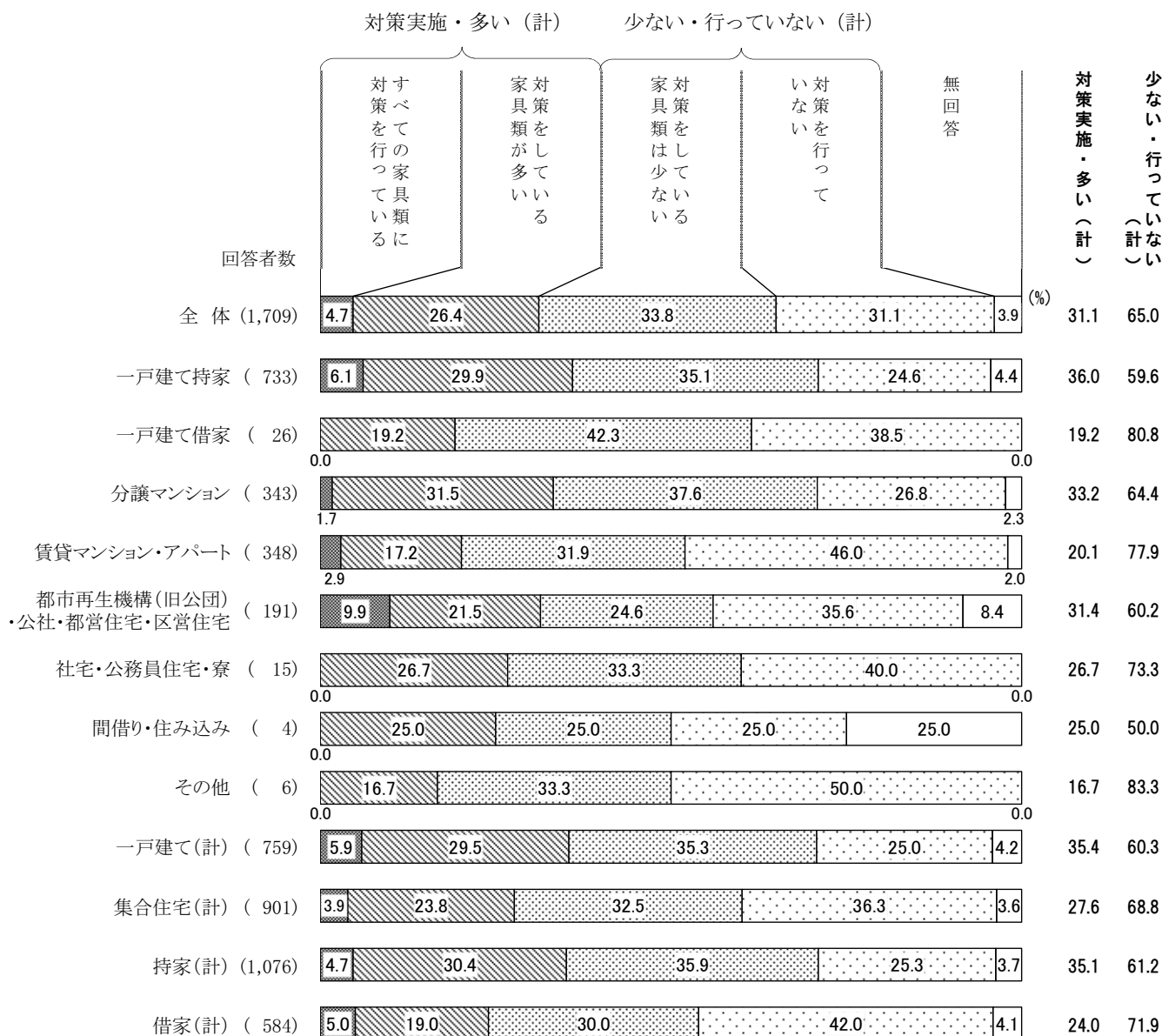


【女性】



住居形態別に【対策実施・多い】を住宅の戸建て集合別にみると、〈一戸建て（計）〉（35.4%）の方が〈集合住宅（計）〉（27.6%）より7.8ポイント高く、住宅の所有形態別にみると、〈持家（計）〉（35.1%）の方が〈借家（計）〉（24.0%）より11.1ポイント高くなっている。

図2-5-3 住居形態別／家具類の転倒・落下・移動防止対策



※ 「一戸建て借家」「社宅・公務員住宅・寮」「間借り・住み込み」「その他」は、サンプル数が少ないため参考値。

(6) 対策をしていない理由

■「面倒である」、「危険な家具類なく不要」、「壁をキズつけたくない」がともに2割台半ば

問6で「3 対策をしている家具類は少ない」または「4 対策を行っていない」とお答えの方に
問6—1 どのような理由からですか（〇はあてはまるものすべて）。

図2-6-1-① 経年比較／対策をしていない理由

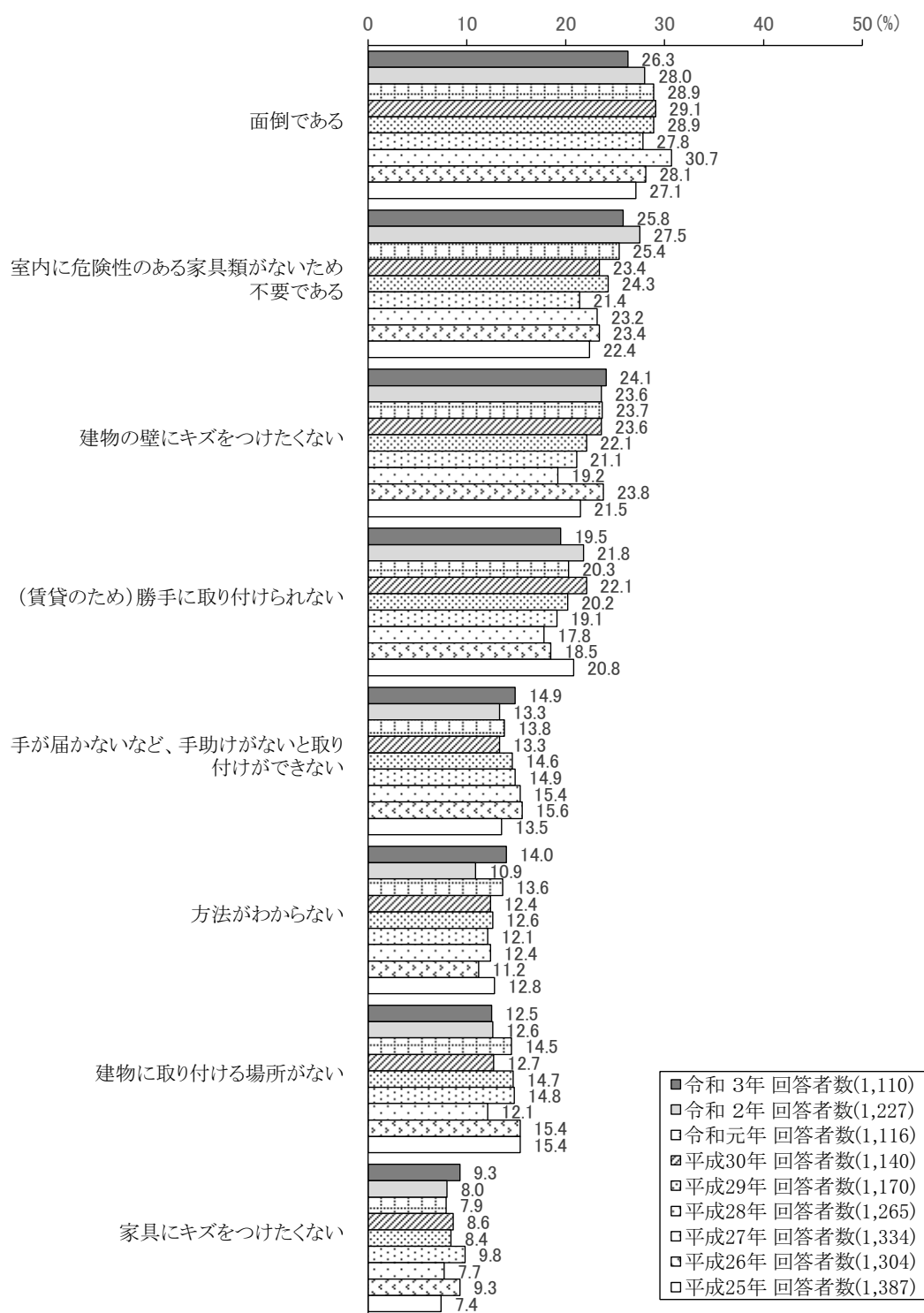
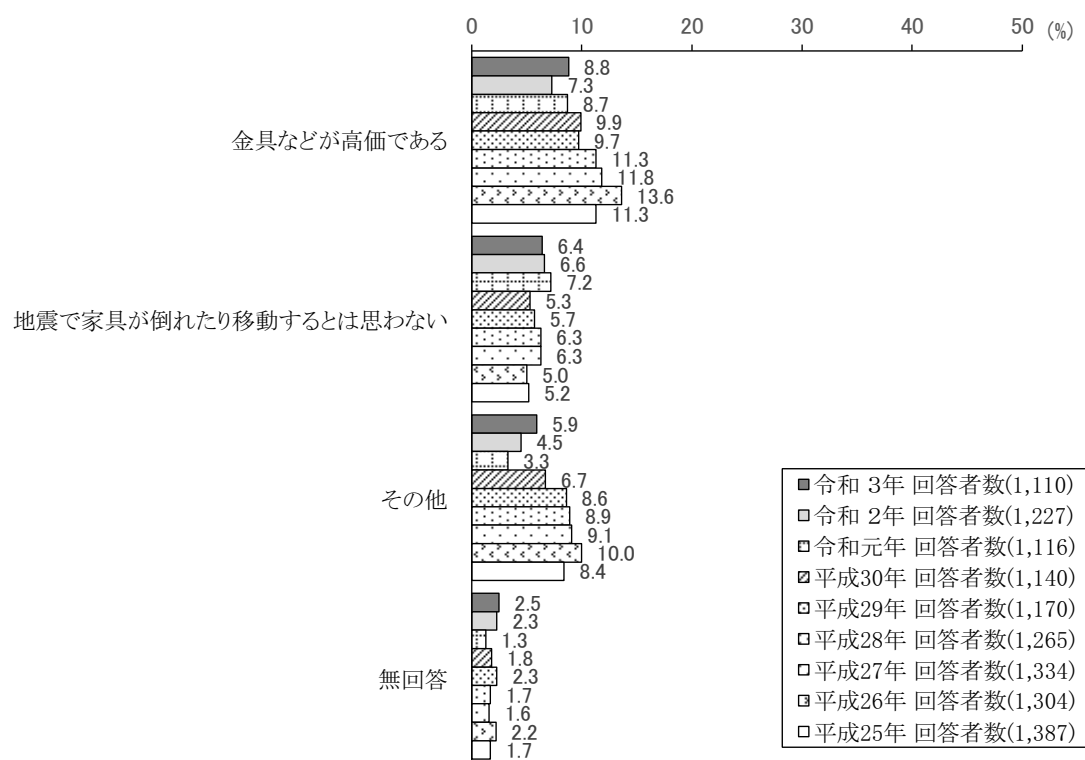


図2-6-1-② 経年比較／対策をしていない理由



家具類への対策を【少ない・行っていない】という人にその理由を聞いたところ、「面倒である」が26.3%で最も高いが、「室内に危険性のある家具類がないため不要である」が25.8%の僅差で続き、以下「建物の壁にキズをつけたくない」(24.1%)、「(賃貸のため)勝手に取り付けられない」(19.5%) などとなっている。

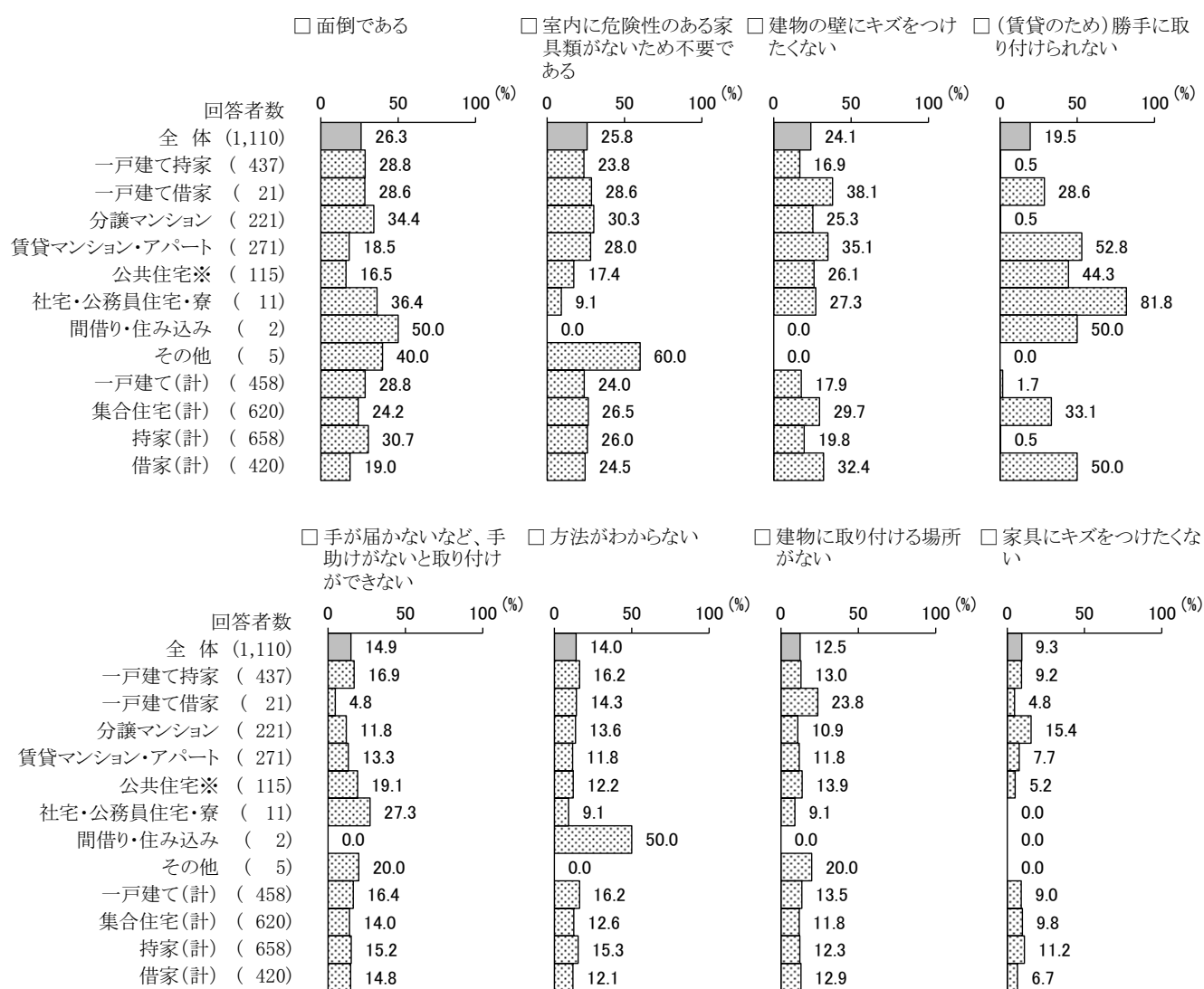
経年でみると、上位項目の順位に変動はみられず、数値にも大きな変動はみられない。

第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

対策をしていない理由を住宅の戸建て集合別にみると、「面倒である」は〈一戸建て（計）〉（28.8％）の方が〈集合住宅（計）〉（24.2％）より4.6ポイント高く、「建物の壁にキズをつけたくない」は〈集合住宅（計）〉（29.7％）の方が〈一戸建て（計）〉（17.9％）より11.8ポイント高くなっている。

対策をしていない理由を住宅の所有形態別にみると、「面倒である」は〈持家（計）〉（30.7％）の方が〈借家（計）〉（19.0％）より11.7ポイント高く、「建物の壁にキズをつけたくない」は〈借家（計）〉（32.4％）の方が〈持家（計）〉（19.8％）より12.6ポイント高くなっている。

図2-6-2 住居形態別／対策をしていない理由／上位8項目



※「公共住宅」とは、都市再生機構（旧公団）・公社・都営住宅・区営住宅のこと。

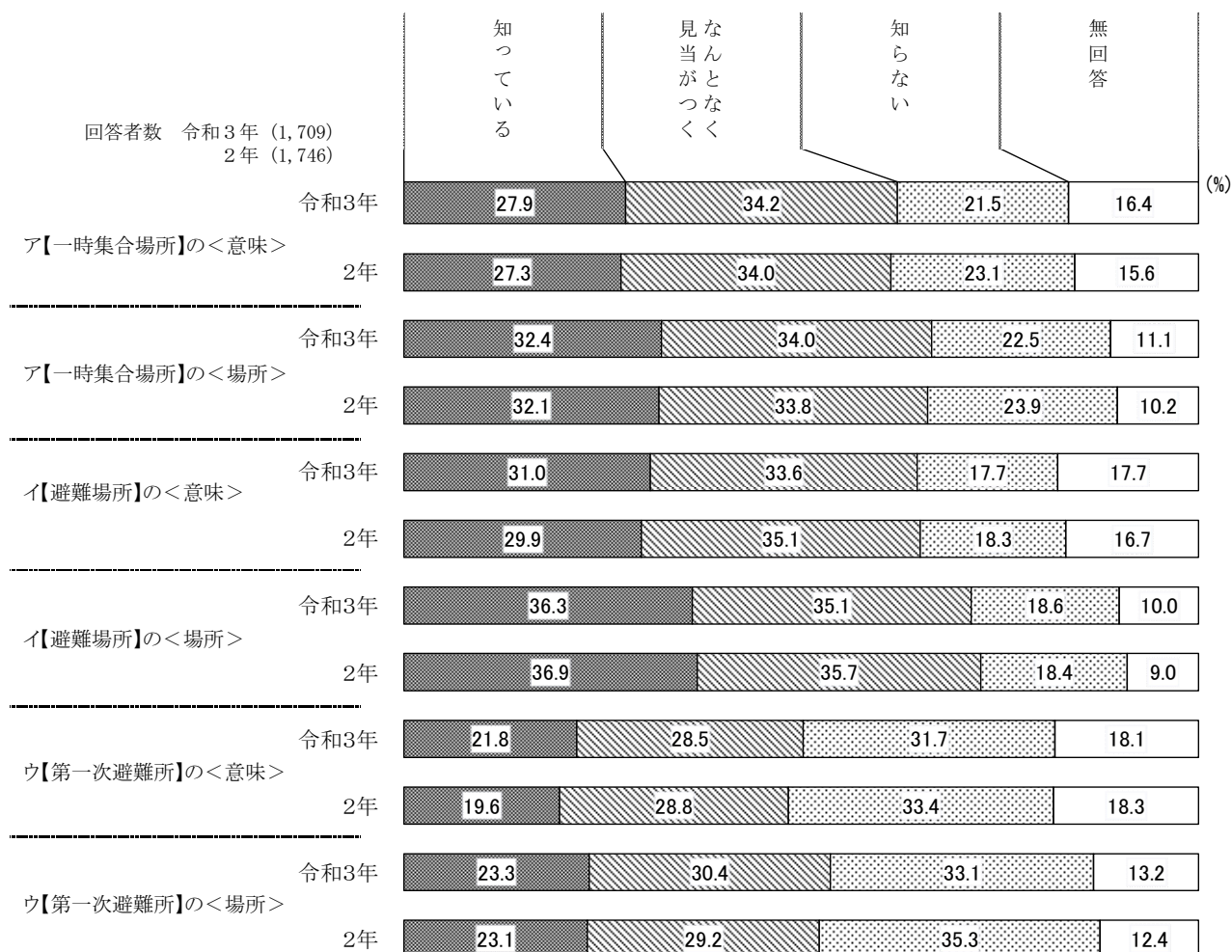
※「一戸建て借家」「社宅・公務員住宅・寮」「間借り・住み込み」「その他」は、サンプル数が少ないため参考値。

(7) 地域の3種の避難場所とその意味の認知

■「知っている」は【避難場所】の〈場所〉が最高(36.3%)、【第一次避難所】の〈意味〉が最低(21.8%)

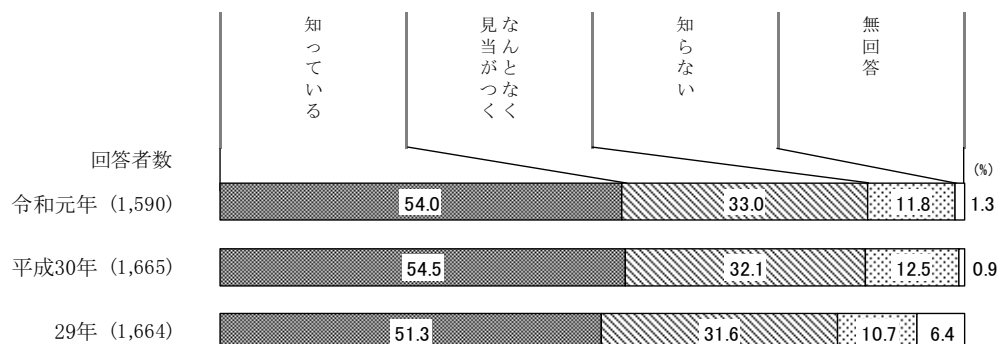
問7 大震災などで大規模な災害が発生した場合に、危険から身を守る、以下のア～ウのあなたの地域の避難場所とその意味を知っていますか(○はそれぞれ1つずつ)。

図2-7-1 前回調査比較/地域の3種の避難場所とその意味の認知



参考/地域の避難場所の認知

問 大震災などで大規模な災害が発生した場合に、危険から身を守る、あなたの地域の避難場所を知っていますか(○は1つだけ)。



第3章 調査結果の分析〈大震災などの災害への備え〉

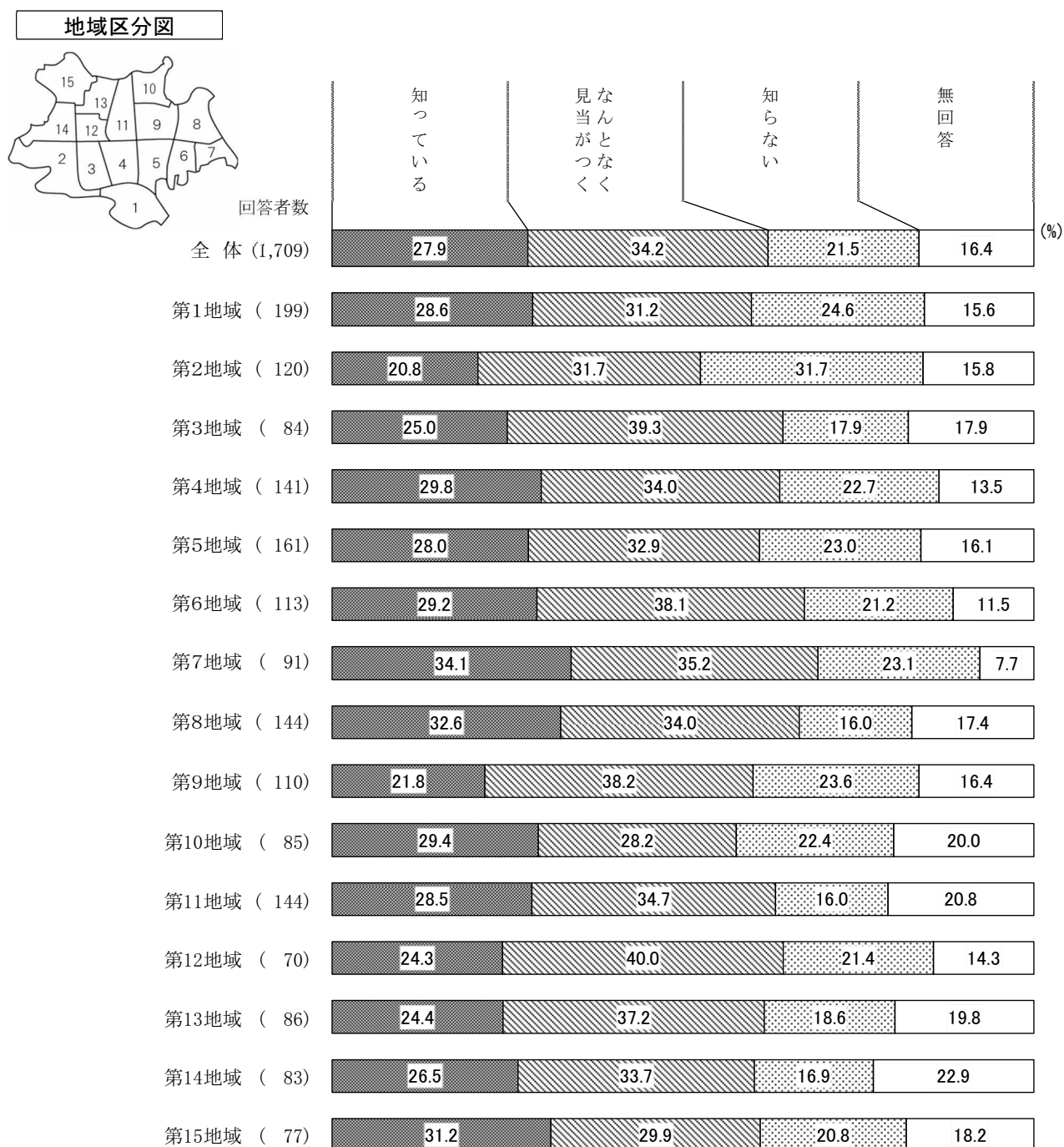
地域の3種の避難場所の意味を「知っている」の割合は、「イ 避難場所」が31.0%で最も高く、以下「ア 一時集合場所」(27.9%)、「ウ 第一次避難所」(21.8%)となっている。

地域の3種の避難場所の場所を「知っている」の割合は、「イ 避難場所」が36.3%で最も高く、以下「ア 一時集合場所」(32.4%)、「ウ 第一次避難所」(23.3%)となっている。

いずれも「意味」より「場所」の認知割合が高くなっており、その差が大きい順に、「イ 避難場所」(5.3ポイント)、「ア 一時集合場所」(4.5ポイント)、「ウ 第一次避難所」(1.5ポイント)となっている。

「ア【一時集合場所】の〈意味〉」の認知状況を地域別でみると、「知っている」は第7地域が34.1%で最も高く、次いで第8地域（32.6%）となっている。一方、第2地域が20.8%で最も低く、次いで第9地域（21.8%）となっている。

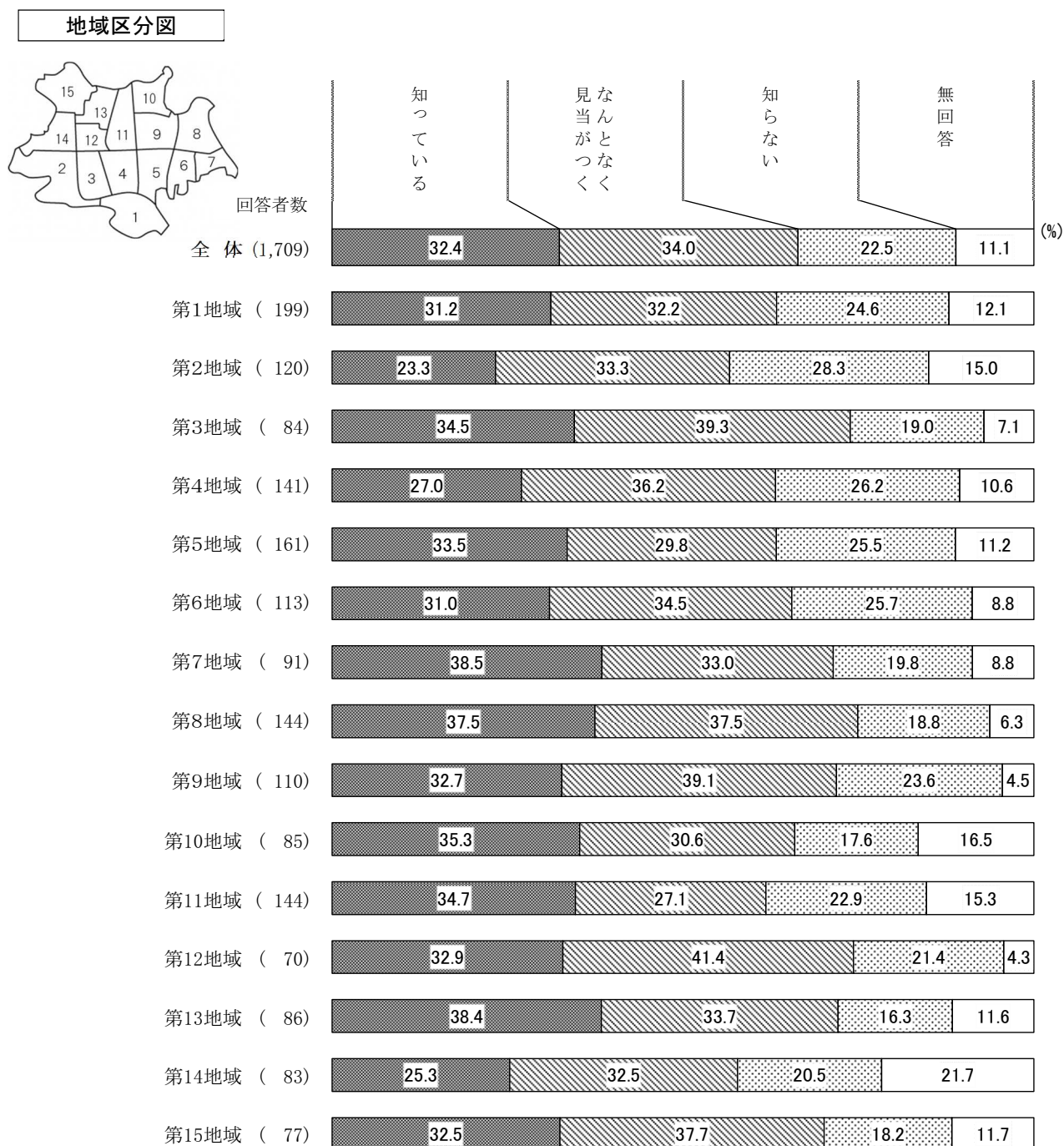
図2-7-2-① 地域別／「ア【一時集合場所】の〈意味〉」の認知



第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

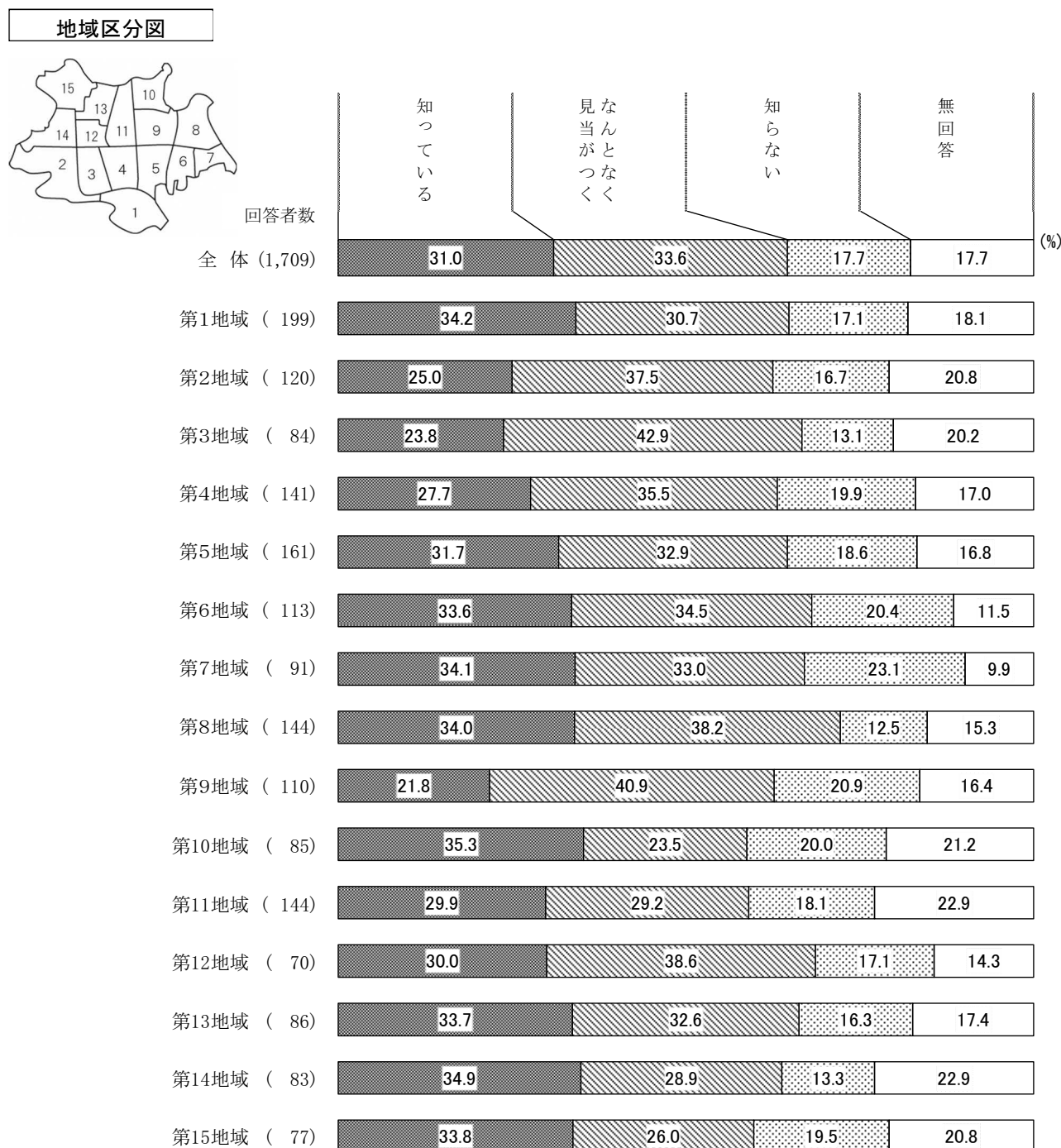
「ア【一時集合場所】の〈場所〉」の認知状況を地域別でみると、「知っている」は第7地域が38.5%で最も高く、次いで第13地域（38.4%）となっている。一方、第2地域が23.3%で最も低く、次いで第14地域（25.3%）となっている。

図2-7-2-② 地域別／「ア【一時集合場所】の〈場所〉」の認知



「イ【避難場所】の＜意味＞」の認知状況を地域別でみると、「知っている」は第10地域が35.3%で最も高く、次いで第14地域（34.9%）となっている。一方、第9地域が21.8%で最も低く、次いで第3地域（23.8%）となっている。

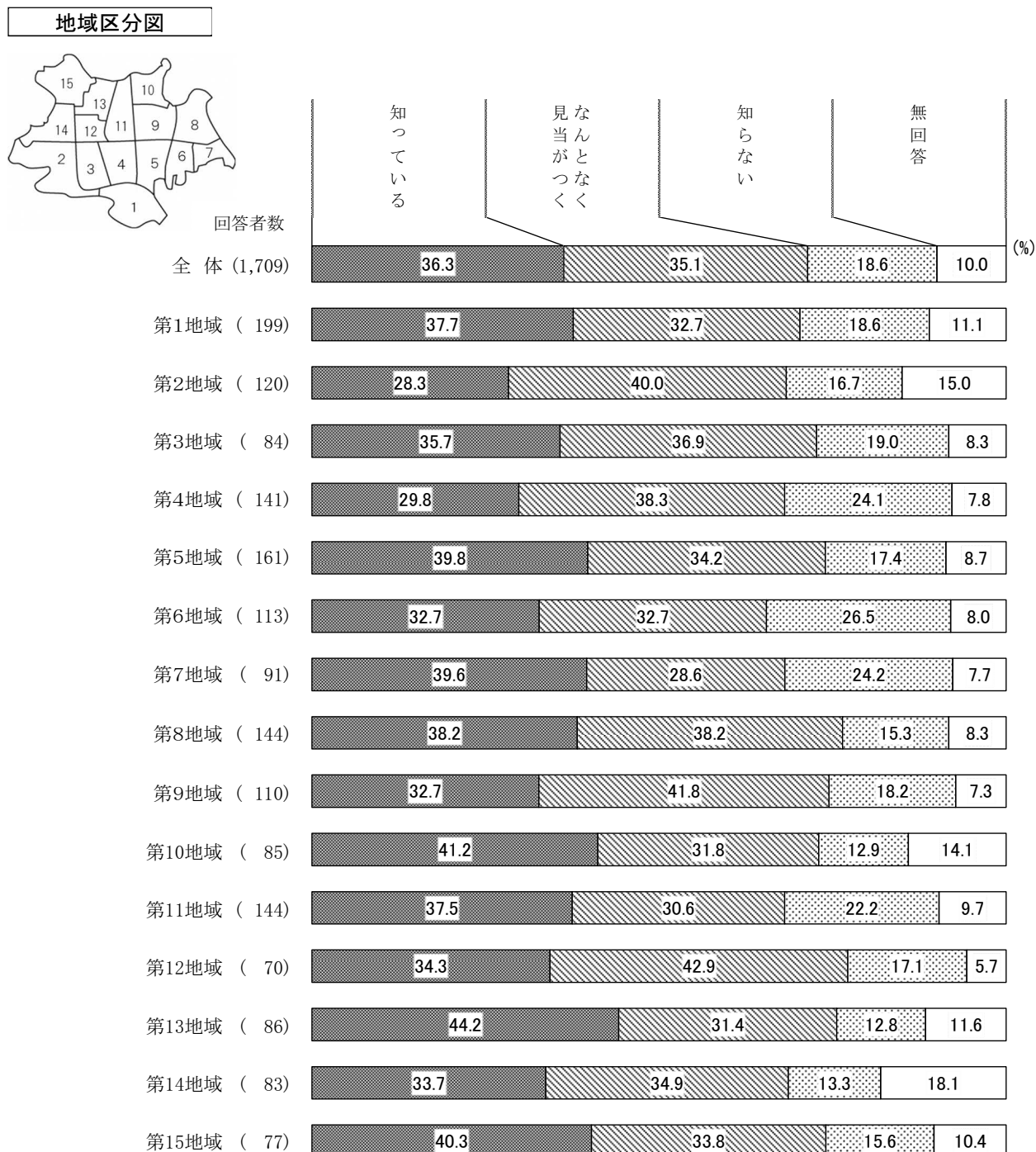
図2-7-2-③ 地域別／「イ【避難場所】の＜意味＞」の認知



第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

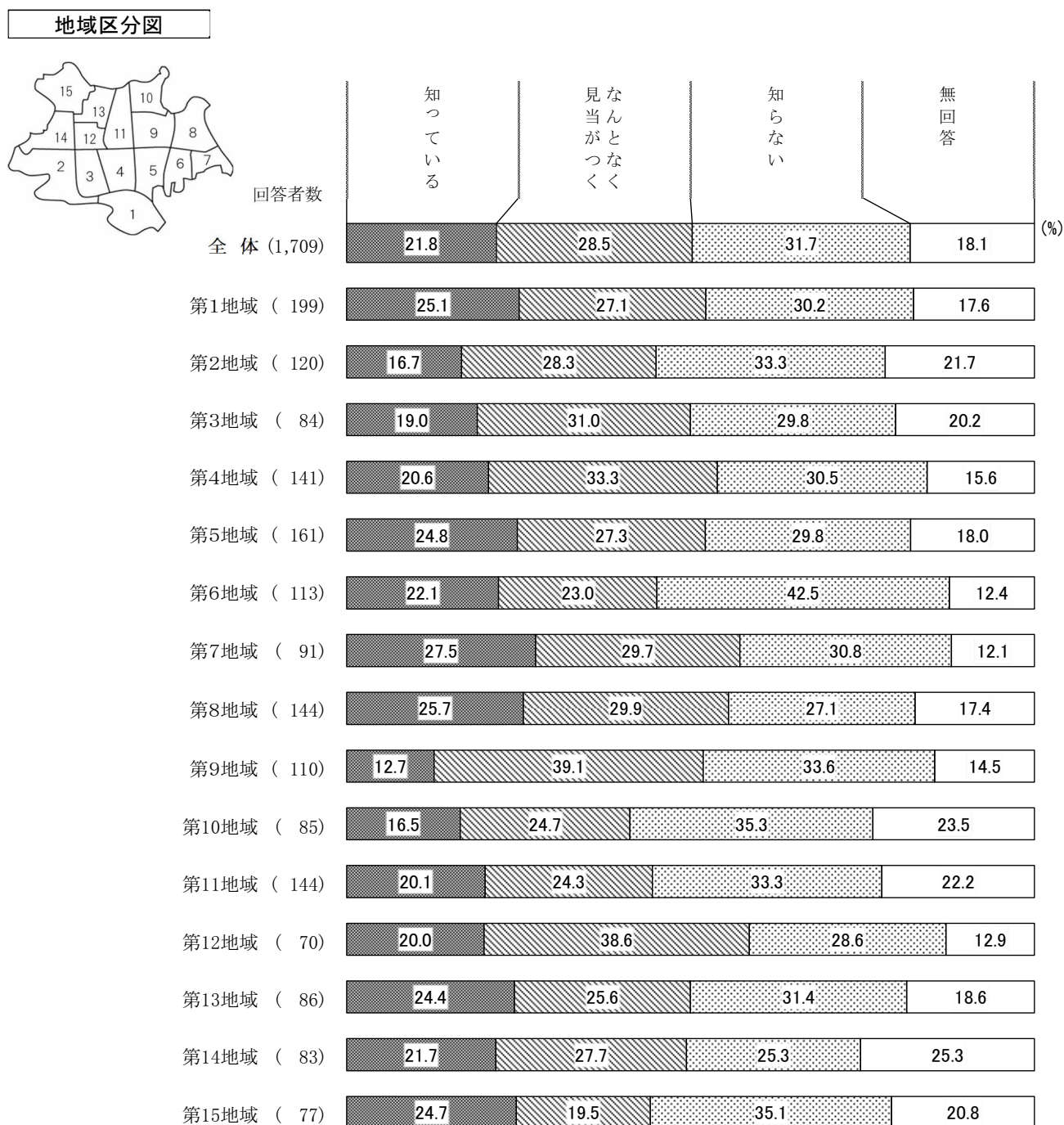
「イ【避難場所】の〈場所〉」の認知状況を地域別でみると、「知っている」は第13地域が44.2%で最も高く、次いで第10地域（41.2%）となっている。一方、第2地域が28.3%で最も低く、次いで第4地域（29.8%）となっている。

図2-7-2-④ 地域別／「イ【避難場所】の〈場所〉」の認知



「ウ【第一次避難所】の＜意味＞」の認知状況を地域別でみると、「知っている」は第7地域が27.5%と最も高く、次いで第8地域（25.7%）となっている。一方、第9地域が12.7%で最も低く、次いで第10地域（16.5%）となっている。

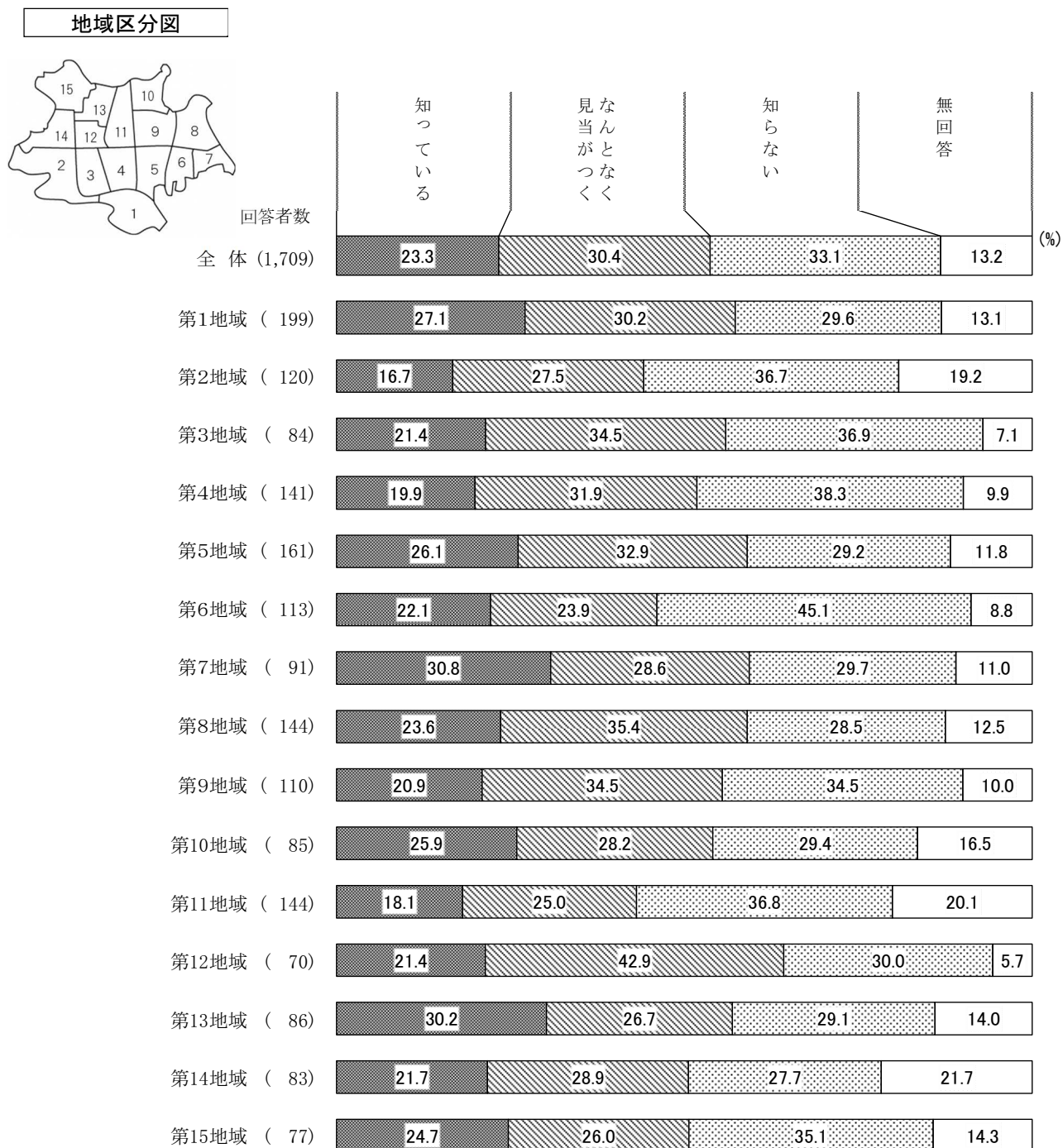
図2-7-2-⑤ 地域別／「ウ【第一次避難所】の＜意味＞」の認知



第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

「ウ【第一次避難所】の〈場所〉」の認知状況を地域別でみると、「知っている」は第7地域が30.8%で最も高く、次いで第13地域（30.2%）となっている。一方、第2地域が16.7%で最も低く、次いで第11地域（18.1%）となっている。

図2-7-2-⑥ 地域別／「ウ【第一次避難所】の〈場所〉」の認知



(8) 避難場所の認知経路

■ “防災マップ&ガイド”が5割弱で最も高く、次いで“広報”が3割強

問7のいずれかで「1 知っている」とお答えの方に

問7—1 それぞれの避難場所をどのように知りましたか（〇はあてはまるものすべて）。

図2-8-1-① 経年比較／避難場所の認知経路

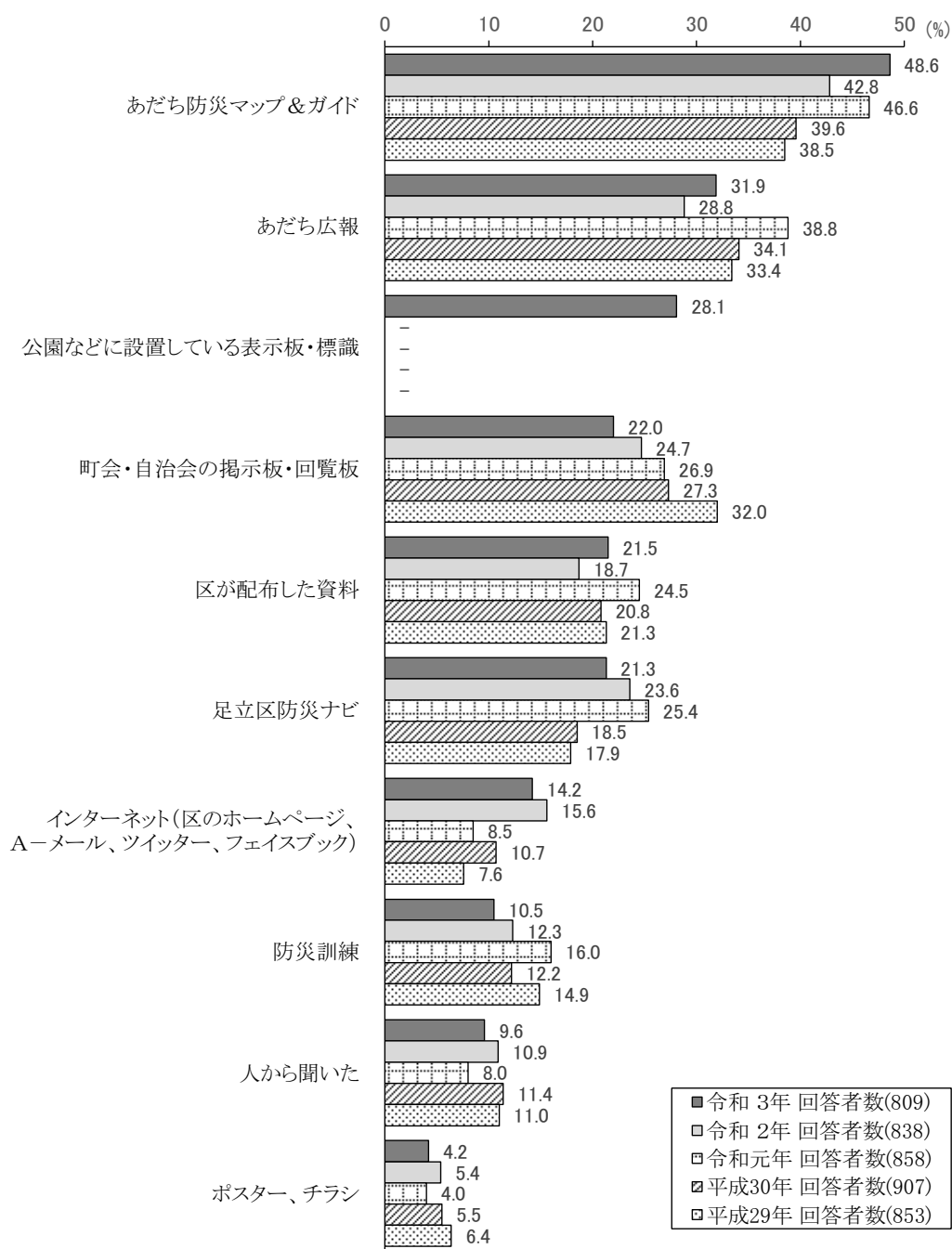
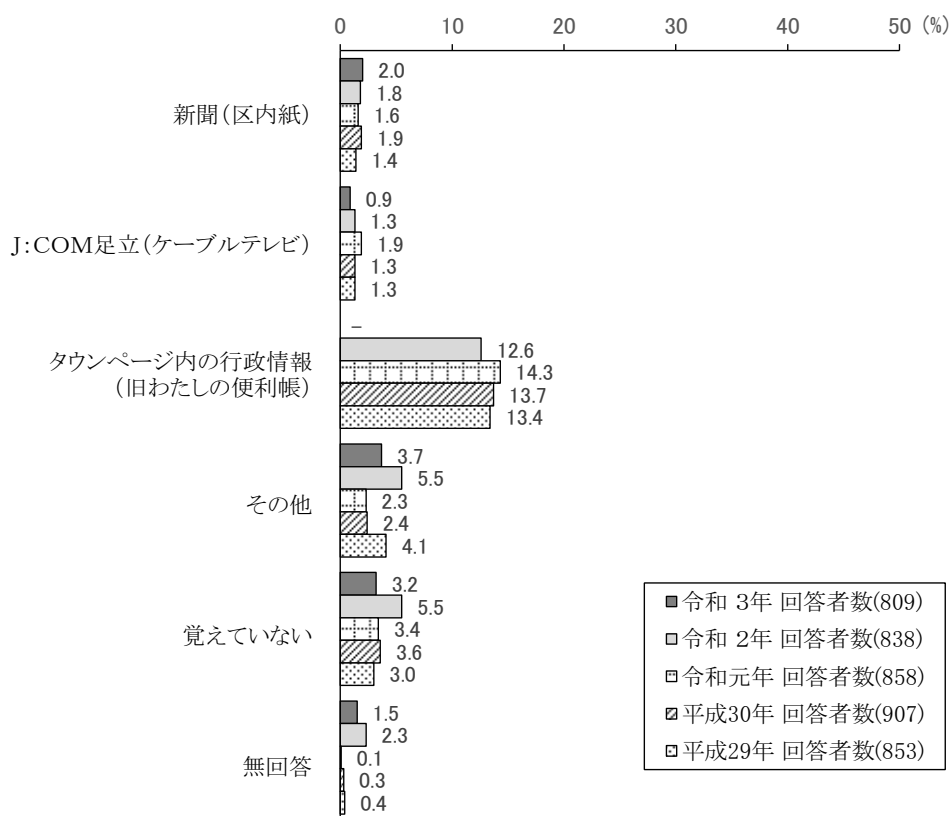


図2-8-1-② 経年比較／避難場所の認知経路



※ 令和元年度までであった「区公式アプリ『アダチさん』」は、令和2年度・令和3年度は割愛。

※ 「公園などに設置している表示板・標識」は、今回の令和3年度新設。

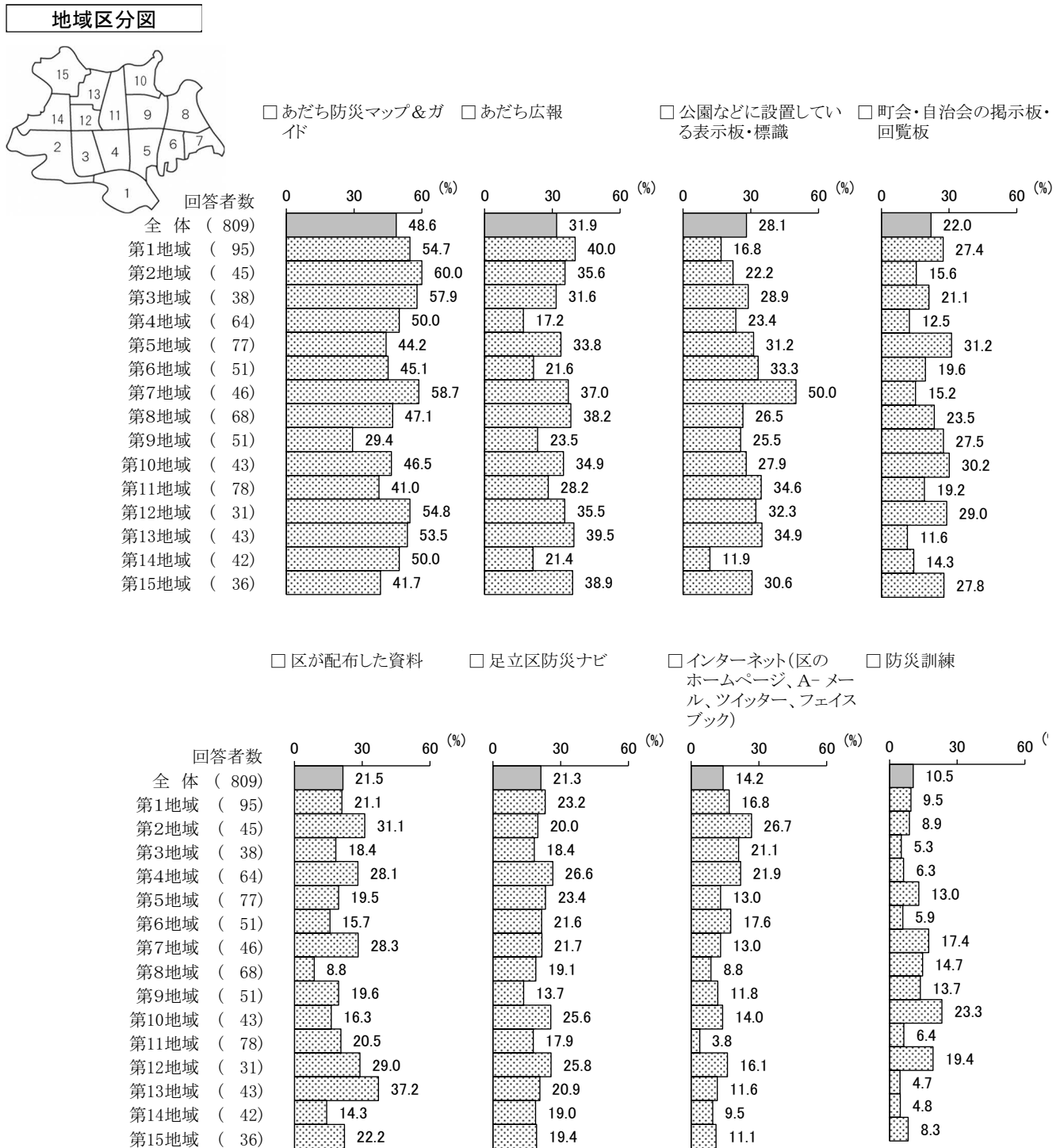
※ 前年度までであった「タウンページ内の行政情報（旧わたしの便利帳）」は、令和3年度は割愛。

問7の3種の避難場所の場所又は意味のいずれかを認知している人のその認知経路をみると、「あだち防災マップ&ガイド」が48.6%で最も高く、次いで「あだち広報」(31.9%)、「公園等に設置している表示板・標識」(28.1%)、「町会・自治会の掲示板・回覧板」(22.0%)、「区が配布した資料」(21.5%)、「足立区防災ナビ」(21.3%) などとなっている。

経年でみると、順位では、1位「あだち防災マップ&ガイド」、2位「あだち広報」に変動はないが、3位に新設の「公園などに設置している表示板・標識」が入っており、その効果がうかがえる。また、前回の令和2年調査に対する割合の増減では、1位「あだち防災マップ&ガイド」が5.8ポイントの増加、2位「あだち広報」が3.1ポイントの増加となっている。逆に4位「町会・自治会の掲示板・回覧板」は2.7ポイントの減少となっている。

地域別でみると、「あだち防災マップ&ガイド」は第2地域で60.0%と最も高く、「あだち広報」は第1地域（40.0%）、「公園などに設置している表示板・標識」は第7地域（50.0%）、「町会・自治会の掲示板・回覧板」は第5地域（31.2%）、「区が配布した資料」は第13地域（37.2%）で最も高くなっている。

図2-8-2 地域別／避難場所の認知経路／上位8項目

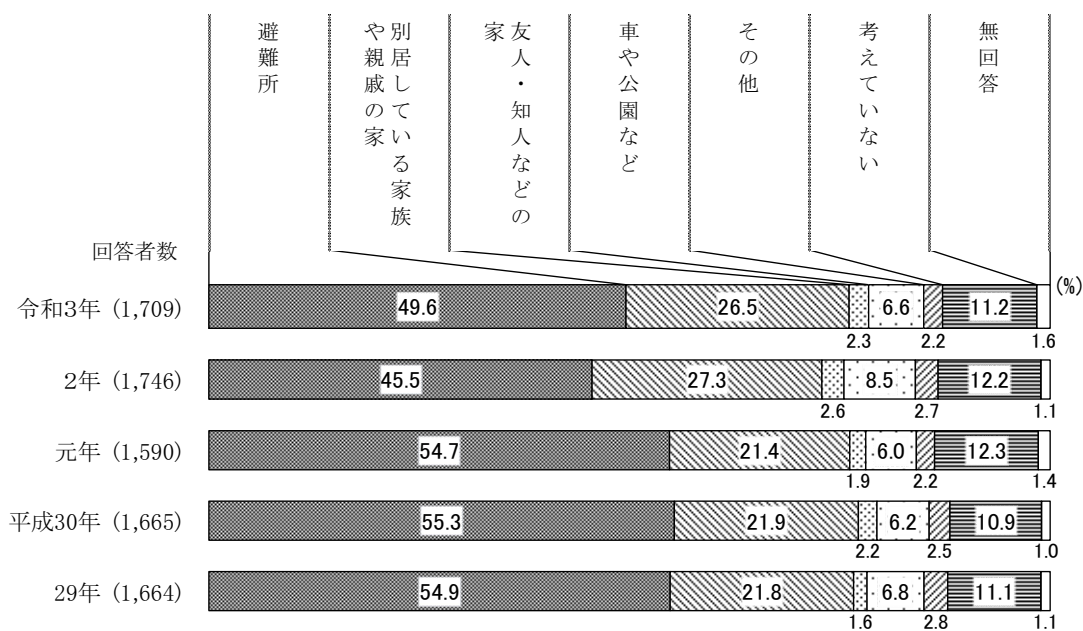


（9）大規模災害時の避難生活場所

■「避難所」が約5割で最も高いが、コロナ禍以前の3年間平均の5割台半ばに比べると低い

問8 大規模な災害が発生し家屋の倒壊などにより自宅で生活できない場合、どこで生活しようと考えていますか（○は1つだけ）。

図2-9-1 経年比較／大規模災害時の避難生活場所

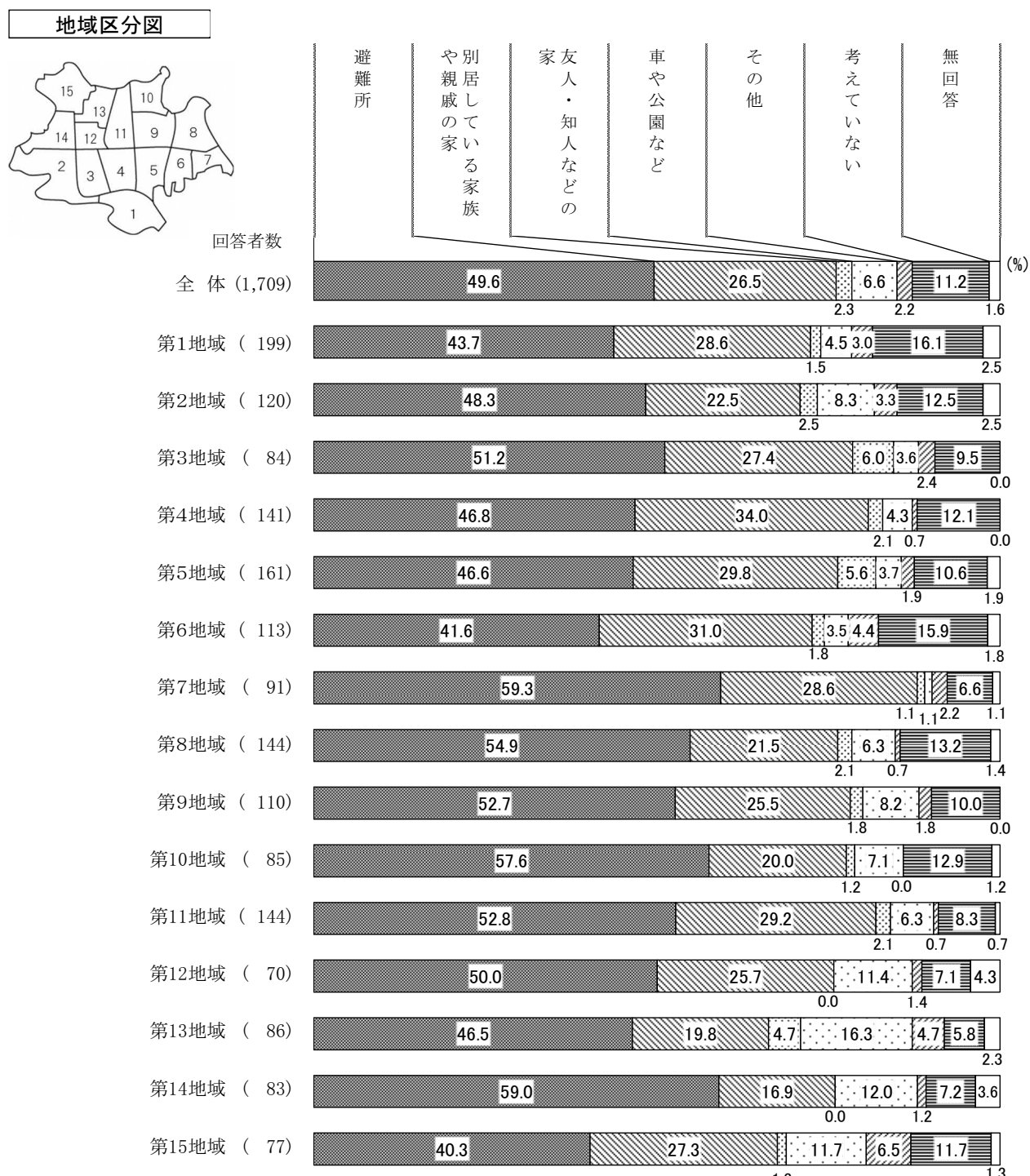


大規模災害時に避難生活を送る場所としては、「避難所」が49.6%で最も高く、次いで「別居している家族や親戚の家」が26.5%となっている。

経年でみると、「避難所」は前回の令和2年調査（45.5%）より4.1ポイント増加したものの、新型コロナウイルス感染防止対策としての密回避の影響もあって、コロナ禍以前の3年間の5割台半ばに比べると低くなっている。

地域別でみると、「避難所」は第7地域（59.3%）と第14地域（59.0%）で約6割と高く、「別居している家族や親戚の家」は第4地域（34.0%）と第6地域（31.0%）で3割台と高くなっている。一方、「考えていない」は第1地域（16.1%）と第6地域（15.9%）で1割台半ばと他の地域に比べて高くなっている。

図2-9-2 地域別／大規模災害時の避難生活場所



(10) 大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

■ “衛生対策の充実” と “ライフラインの確保” が6割で1位と2位

問9 あなたが、大地震の際の防災対策として、足立区に特に力を入れてほしいと考えていることは何ですか（○は5つまで）。

※ 災害時における要配慮者とは、高齢者、障がい者、外国人、難病患者、乳幼児、妊産婦など、災害発生時に避難行動を取る際や、避難所における生活などにおいて、特に配慮を要する方々を指します。

図2-10-1-① 経年比較／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

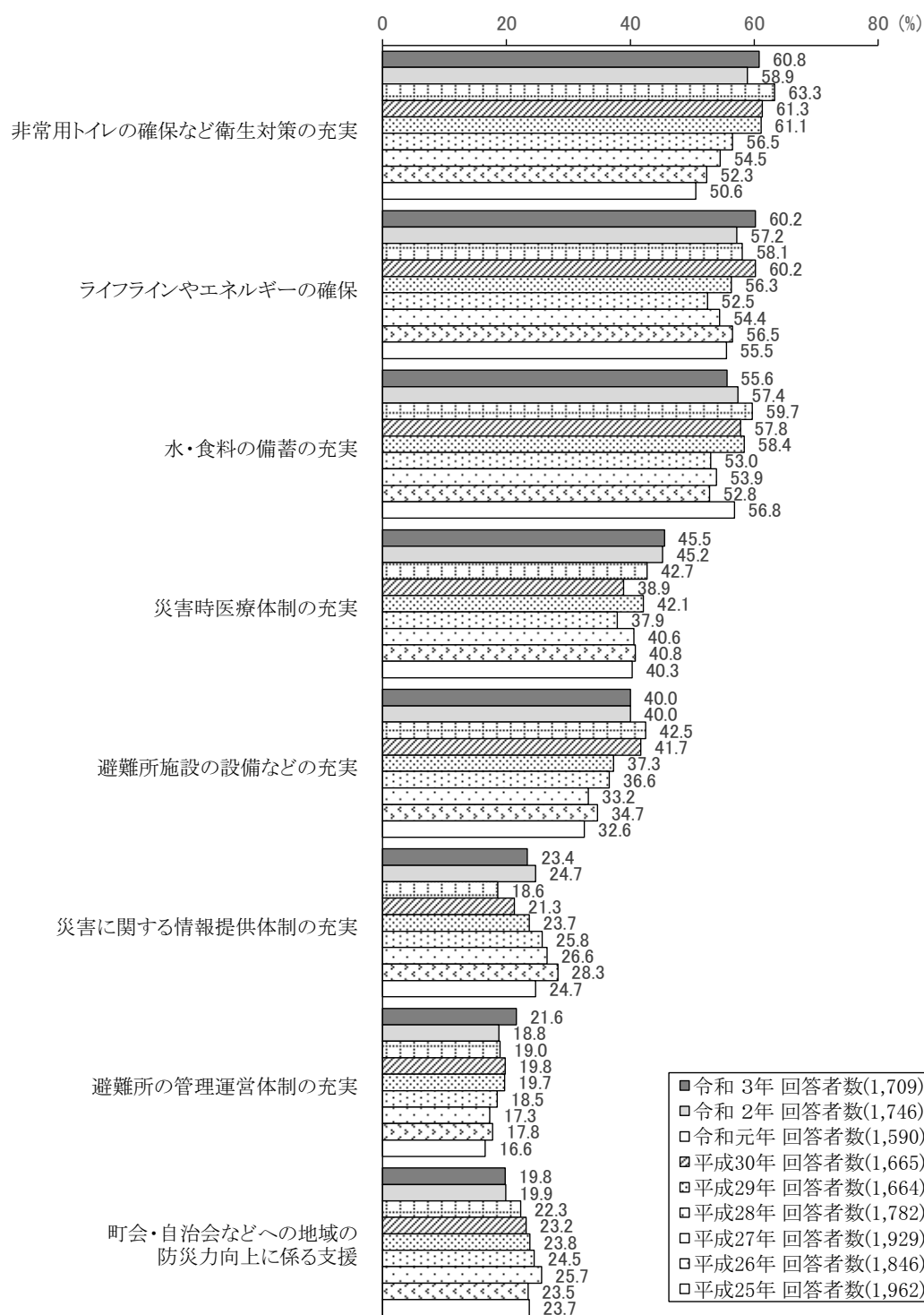


図2-10-1-② 経年比較／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

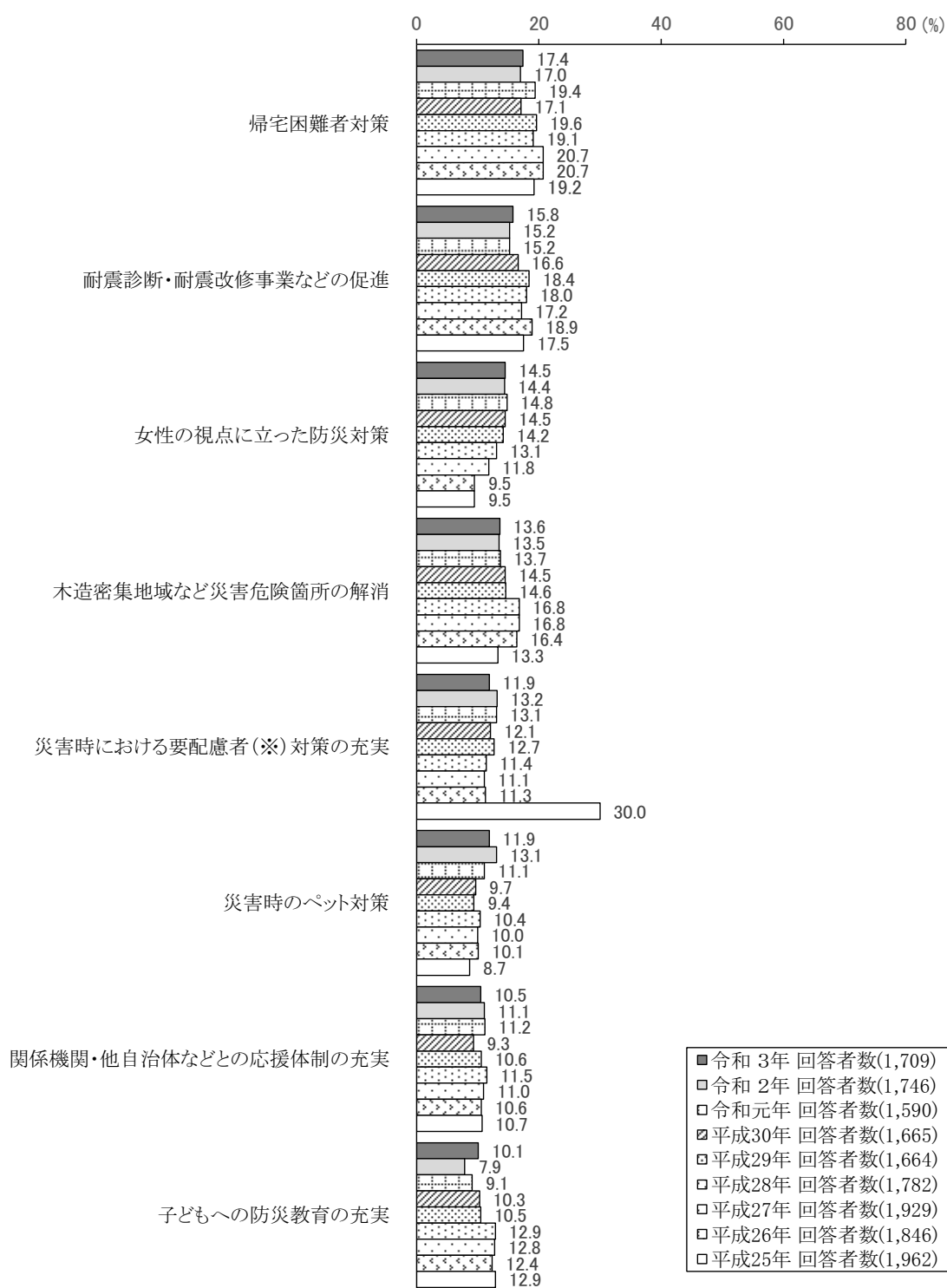
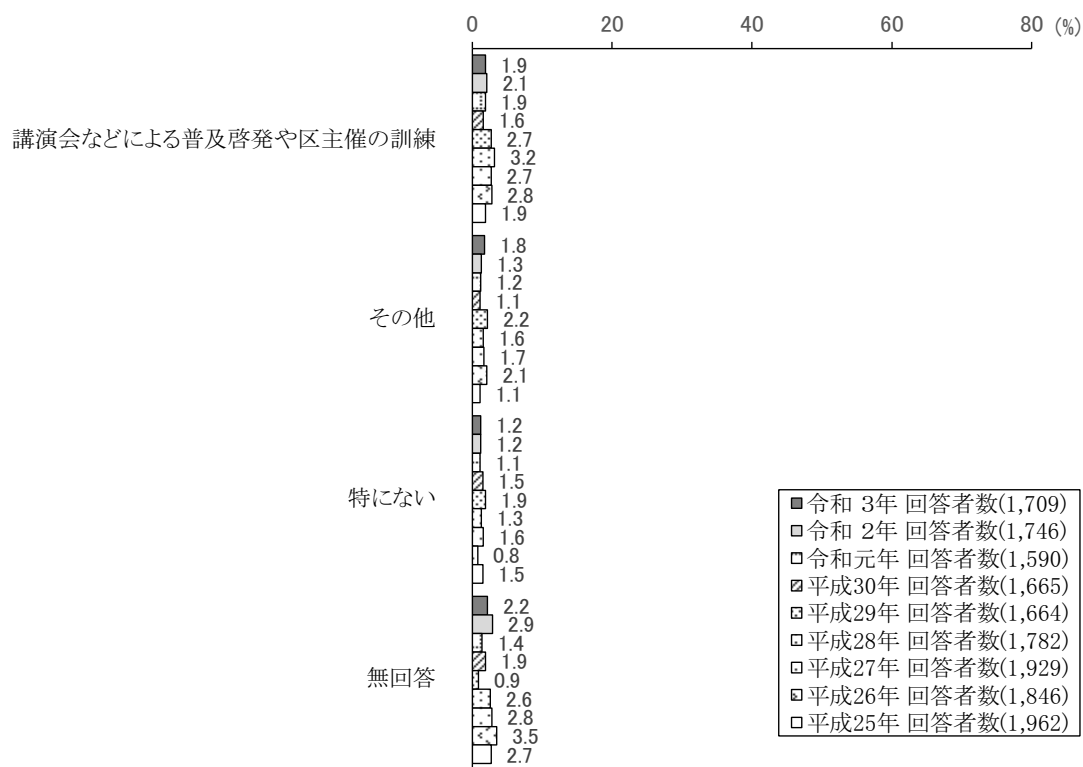


図2-10-1-③ 経年比較／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと



※「水・食料の備蓄の充実」は、平成25年度では「水・食料等災害用備蓄の充実」。

※「災害時における要配慮者対策の充実」は、平成25年度では「高齢者・障がい者・乳幼児などの要援護者対策の充実」。

大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいことは、「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」が60.8%で最も高く、次いで「ライフラインやエネルギーの確保」(60.2%)、「水・食料の備蓄の充実」(55.6%)、「災害時医療体制の充実」(45.5%)などとなっている。

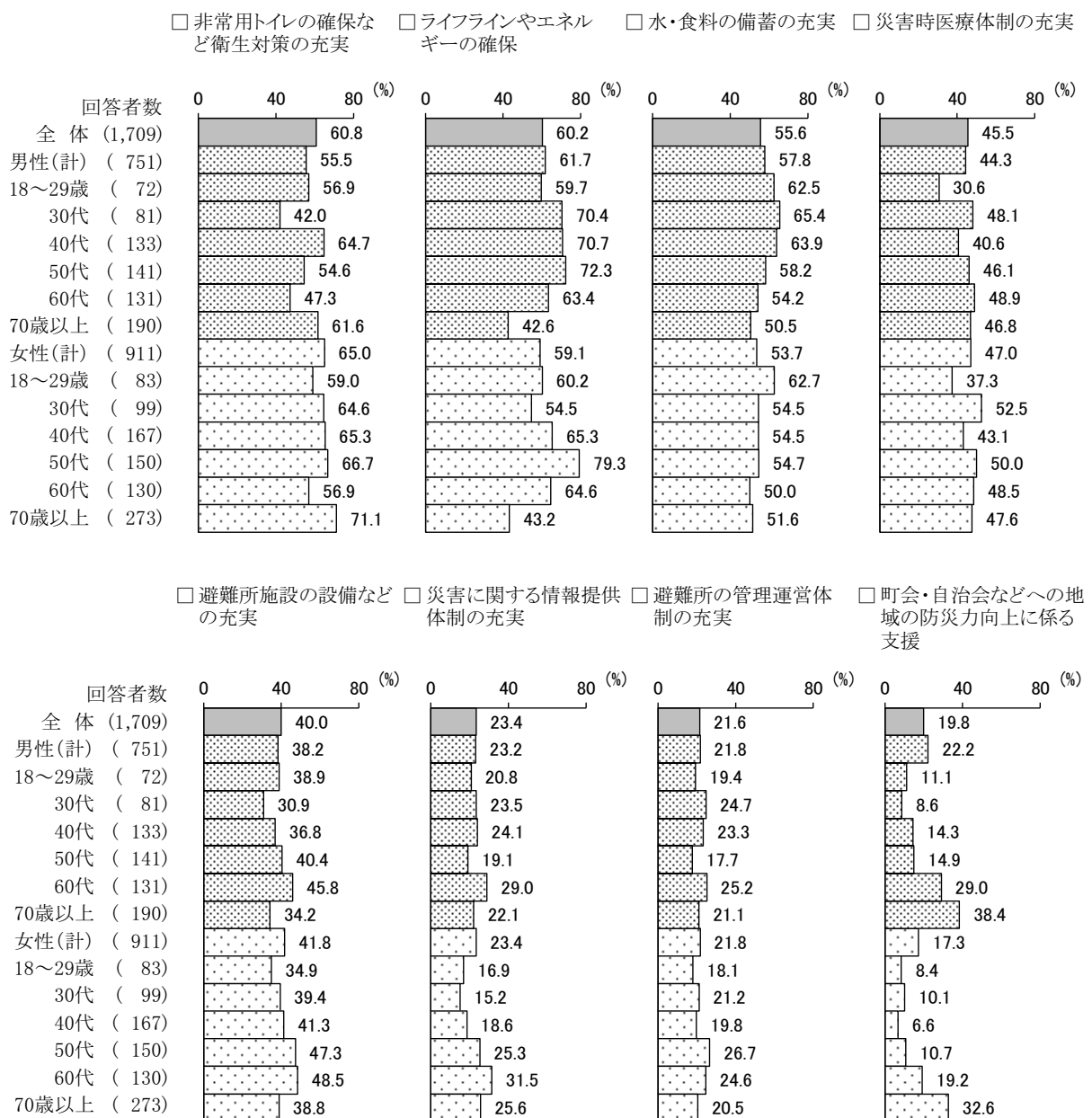
経年でみると、「ライフラインやエネルギーの確保」が前回の令和2年調査から3.0ポイント増加し、「水・食料の備蓄の充実」にかわって2位となったが、その他の上位項目の順位と割合に大きな違いはみられない。

性別でみると、「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」は女性（65.0％）の方が男性（55.5％）より9.5ポイント高くなっている。一方「町会・自治会などへの地域の防災力向上に係る支援」は男性（22.2％）の方が女性（17.3％）より4.9ポイント高く、「水・食料の備蓄の充実」でも男性（57.8％）の方が女性（53.7％）より4.1ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」は女性の70歳以上が71.1％と最も高く、「ライフラインやエネルギーの確保」は女性の50代が79.3％で最も高くなっている。また、「水・食料の備蓄の充実」は男性の40代以下と女性の18～29歳で6割台と高くなっている。

図2-10-2 性別、性・年代別／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

／上位8項目



第3章 調査結果の分析 〈大震災などの災害への備え〉

ライフステージ別でみると、「非常用トイレの確保など衛生対策の充実」は、〈その他壮年期〉（65.0%）、〈家族成長後期〉（64.0%）、〈高齢期〉（63.3%）で6割台半ばと高く、「ライフラインやエネルギーの確保」は〈家族成熟期〉（73.1%）、〈その他壮年期〉（72.8%）、〈家族成長前期〉（71.4%）で7割台前半と高くなっている。また、「水・食料の備蓄の充実」は〈家族形成期〉（67.5%）で6割台半ばを超えて他のライフステージに比べて特に高くなっている。

図2-10-3 ライフステージ別／大地震の際の防災対策として区に力を入れてほしいこと

／上位8項目

